



一般社団法人
日本スポーツツーリズム
推進機構

目次



1. 事業一覧(抜粋)	2
2. SportAccord Convention 2019	7
3. 第7回スポーツ振興賞	14
4. SPORTEC for LEISURE & GAME/SPORTEC WEST2019	23
5. アーバンスポーツサミット 2019	25
6. 第8回スポーツツーリズム・カンファレンス	26
7. Youth & Winter Sports シンポジウム/ユースオリンピック冬季競技大会	29
8. 第8回スポーツツーリズム・コンベンション in 金沢	33
9. ヘルスツーリズム認証	42
10. JSTAセミナー	43
11. 2019年度 JSTA会員一覧(法人・公益法人・自治体・スポーツ団体)	57

1 | 事業一覧（抜粋）



月	日	活動	場所
4	19-21	【視察】FISE WORLD SERIES HIROSHIMA 2019 (原田会長、中山事務局長)	広島市
	26	【アドバイザー】矢板スポーツコミッション:総会(中山事務局長)	栃木県矢板市
5	5-10	【国際会議・展示会】SportAccord 2019 in Gold Coast (原田会長・中山事務局長)	オーストラリア ゴールドコースト
	20	【アドバイザー】関西経済連合会スポーツ振興協議会:スポーツイベント 招致グループ (原田会長、上治理事、中山事務局長)	東京都
	22	SPORTEC for LEISURE & GAME:スポーツ振興賞表彰式 (原田会長、中山事務局長)	東京ビックサイト
	23	SPORTEC for LEISURE & GAME:スポーツツーリズム需要拡大 戦略セミナー	
	23	2019 年度定時社員総会	
	24	JSTA セミナー in SPORTEC ①・②	
6	5	【講演】大阪商工会議所:連合会総会(原田会長)	大阪市
	8	【講演】第 13 回全国スポーツクラブ会議 2019 in TOKYO(原田会長)	大田区民ホー ル・アプリコ
	17	【会議】アジアゴルフツーリズムコンベンション(AGTC) 誘致準備委員会(中山事務局長)	TKP 虎ノ門駅前 カンファレンス センター
	17	【講演】日中韓記者交流プログラム(原田会長、中山事務局長)	共同通信会館 会議室 A・B
	21	2019 年度第 1 回 JSTA セミナー	共同通信会館 会議室 A・B
	24	【会議】公益社団法人スポーツ健康産業団体連合会:総会(原田会長)	弘済会館
	25	第 35 回常任理事会	共同通信会館
	28	【会議】(一社)日本ゴルフツーリズム推進協会:総会(中山事務局長)	TKP 東京駅日本橋カ ンファレンスセンター
7	4	【会議】日本工学院八王子専門学校:スポーツビジネスコース職業実践 教育編成委員会(中山事務局長)	東京都八王子市
	4	【会議】岡山県「県政に関する有識者意見交換会」(原田会長)	都道府県会館
	8	【会議】中国浙江省中長期調査員来局(中山事務局長)	共同通信会館

7	12	【会議】関西ワールドマスタースゲームズ 2021 組織委員会 (中山事務局長)	大阪市
	16	【講演】スポーツコミッション関西「第 1 回ビジネスインキュベーション セミナー」(中山事務局長)	大阪市
	19	2019 年度第 2 回 JSTA セミナー	共同通信会館
	22	【会議】とから MICE 誘致推進協議会(中山事務局長)	JTB 本社天王洲 ビル
	26	【講演】一般財団法人自治体国際化協会:第 1 回海外経済セミナー (大阪)「スポーツツーリズム」(原田会長)	大阪府大阪市
	29	第 29 回理事会	三会堂ビル
8	4	【講演】カヌースラロームシンポジウム 2019 in 江戸川区(原田会長)	タワーホール船 堀
	7-8	【講演】九州地域戦略会議「第 16 回夏季セミナー」(中山事務局長)	熊本県熊本市
	16	【視察】ITU ワールドトライアスロンオリンピッククオリフィケーション イベント(事務局)	お台場海浜公園
	21	【議会】金沢市議会:オリンピック・パラリンピック関連国際化対策 特別委員会(原田会長)	石川県金沢市
		【講演】山形県観光物産協会「スポーツツーリズムの更なる展開へ ～地域をつなぐ仕組みづくり～」(中山事務局長)	山形県山形市
	27	【講演】市町村職員中央研修所(市町村アカデミー)	千葉県千葉市
	30	「スポーツを活用したまちづくり」(原田会長)	
9	2	【会議】スポーツ庁「第 1 回武道ツーリズム研究会」「第1回スポーツツーリ ズム需要拡大のための官民連携協議会」(原田会長、中山事務局長)	セレスティン芝三 井ビルディング
	4	【会議】スポーツ議員連盟「スポーツレガシーの在り方に関する検討プロ ジェクトチームアドバイザリーボード」(第1回)(原田会長)	衆議院第1議員 会館国際会議場
	12	【会議】一般社団法人日本ゴルフツーリズム推進協会:2019年度 第2回 理事・評議員会(中山事務局長)	三恵ビル 4 階
	18	2019 年度第 3 回 JSTA セミナー	共同通信会館 会議室 A・B
	24	第 36 回常任理事会	共同通信会館 会議室 C
	25	【アドバイザー】九州経済産業局「FUKUOKA 超・ボールパークを地域 の核とした観光・スポーツの新サービス創造のためのイノベーション支 援」第1回(中山事務局長)	福岡市
	26	【講義】JICA「観光振興とマーケティング課題別研修」(A)(中山事務局長)	JICA 東京センター
	27	【講演】中華民国観光産業人材教育研修団(中山事務局長)	全日通会館

10	1	ヘルスツーリズムセミナー:第4期認証授与式(中山事務局長)	日本旅行業協会 研修室
	1-2	【講演】全国市町村国際文化研修所「スポーツと地域の活性化」 (原田会長)	滋賀県大津市
	4	【講演】岸和田市議会(原田会長)	大阪府岸和田市
	9	【講演】福井県主催スポーツツーリズムセミナー 「福井のスポーツを盛り上げるために！」(原田会長)	福井県福井市
	21	【会議】広島スタジアム構想有識者会議(原田会長)	広島市
	23	JSTA×JUSC(日本アーバンスポーツ支援協議会)共催 「アーバンスポーツサミット 2019」	コンベンションルーム AP 渋谷道玄坂 (渋谷シネタワー)
	31	【選考委員】Forbes スポーツビジネスアワード(原田会長)	東京ミッドタウン
11	1-2	【事業協力】スポーツ庁:スポーツツーリズム官民連携セミナー	京都市イオンモール KYOTO
	2	【講演】CYCLE MODE international 2019「東京オリンピック・レガシーの 持続活用から生み出されるスポーツツーリズムの可能性」(原田会長)	千葉市 幕張メッセ
	4-6	【国際会議】APEC:APEC SPORTS POLICY NETWORK(原田会長)	中華民国台北市
	5	【講義】帝京大学経済学部観光経営学科(中山事務局長)	帝京大学八王子 キャンパス
	6	【アドバイザー】九州経済産業局「FUKUOKA 超・ボールパークを地域 の核とした観光・スポーツの新サービス創造のためのイノベーション支 援」第2回(中山事務局長)	福岡市
	8	【アドバイザー】おやmasportsコミッション:設立準備打合せ (中山事務局長)	栃木県小山市
	10	【アドバイザー】銚子スポーツコミッション:さるだ学集館 オープニング式典(中山事務局長)	千葉県銚子市
	11	【会議】スポーツ庁「第2回武道ツーリズム研究会」「第2回スポーツツーリ ズム需要拡大のための官民連携協議会」(原田会長、中山事務局長)	セレスティン芝三 井ビルディング
	12	【アドバイザー】関西経済連合会スポーツ振興協議会:スポーツイベント 招致グループ(原田会長、上治理事、中山事務局長)	東京都
	13	第37回常任理事会	共同通信会館
	14	【国際会議】第26回 TAFISA ワールドコンGRESS 2019 東京/Smart Cities for SPORTS	都市センターホテル
	15	【会議】福岡県:スポーツコミッション設立のための委員会(原田会長)	福岡市
	15	【講義】JICA「観光振興とマーケティング課題別研修」(B)(中山事務局長)	JICA 東京センター
	17	【講演】北大阪政経懇話会主催「政経フォーラム」(原田会長)	大阪市
	19	【国際会議】東京グローバルパートナーズセミナー(原田会長)	東京都

11	20	【講演】SPORTEC WEST 2019 基調講演(原田会長)	インテックス大阪
	21	JSTA セミナー in SPORTEC WEST2019	
	21	ヘルスツーリズムセミナー:第5期認証授与式(中山事務局長)	
	29	第30回理事会	共同通信会館 会議室B
	29	第8回スポーツツーリズム・カンファレンス	日本財団ビル
12	3	【アドバイザー】銚子スポーツコミッション:内覧会(中山事務局長)	千葉県銚子市
	9	【事業協力】スポーツ庁:スポーツツーリズム官民連携セミナー	福岡市
	11	【アドバイザー】九州経済産業局「FUKUOKA 超・ボールパークを地域の核とした観光・スポーツの新サービス創造のためのイノベーション支援」第3回(中山事務局長)	福岡市
	18	【アドバイザー】大潟村スポーツコミッション:設立準備打合せ(中山事務局長)	共同通信会館
	23	【アドバイザー】関西経済連合会スポーツ振興協議会:全体会議(原田会長、中山事務局長)	大阪市
1	7-12	【国際会議・大会】Youth & Winter Sports コングレス ユースオリンピック冬季競技大会(原田会長、中山事務局長)	スイス・ローザンヌ市及び近郊
	15	【事業協力】スポーツ庁・文化庁・観光庁: 第4回スポーツ文化ツーリズムアワード・シンポジウム	石川県金沢市 文化ホール
	16	第8回スポーツツーリズム・コンベンション in 金沢	
	20	【講演】マラソンサミット in ジャパン 2020(原田会長)	豊洲文化センター・レクホール
	21	【講演】大阪産業人クラブ「新春互例会」(原田会長)	大阪市 ANA クラウン プラザホテル大阪
	23	【アドバイザー】スポーツコミッションおおがた(仮称):設立準備委員会	秋田県大潟村
	28	【事業協力】スポーツ庁:スポーツツーリズム官民連携セミナー	名古屋市
2	6	【講演】第3回地方創生 EXPO:専門セミナー(中山事務局長)	千葉市 幕張メッセ
	12	【会議】スポーツ庁「第3回武道ツーリズム研究会」「第3回スポーツツーリズム需要拡大のための官民連携協議会」(原田会長、中山事務局長)	セレスティン芝三井ビルディング
	20	【事業協力】スポーツ庁:スポーツツーリズム官民連携セミナー (北海道経済産業局セミナーと併催)	札幌市
	21	【アドバイザー】九州経済産業局「FUKUOKA 超・ボールパークを地域の核とした観光・スポーツの新サービス創造のためのイノベーション支援」第4回(中山事務局長)	福岡市
	26	【会議】福岡県:スポーツコミッション設立のための委員会(原田会長)	福岡市

2	28	第 38 回 JSTA 常任理事会	共同通信会館
	28	【会議】日本工学院八王子専門学校:スポーツビジネスコース職業実践教育編成委員会(中山事務局長)	東京都八王子市
	29	【アドバイザー】東北運輸局:八幡平ウィンタースポーツ関連招請モニターツアー先進事例ヒアリング(中山事務局長)	長野県 野沢温泉村
3	2	【事業協力】武道ツーリズム研究会セミナー =延期	
	6	JSTA 特別セミナー「スポーツビジネスの新しい地平を拓く:スポーツホスピタリティの可能性 RWC2019 から 2020TOKYO へ」=時期未定延期	
	8	【アドバイザー】銚子スポーツタウン:第 2 野球場完成記念イベント(中山事務局長)	千葉県銚子市
	9-11	【アドバイザー】東北運輸局:八幡平ウィンタースポーツ関連 招請モニターツアー(中山事務局長)	岩手県八幡平市
	17	【事業協力】日本スポーツ協会:Japan Sport Convention JSPO 加盟団体経営フォーラム(原田会長)=中止	
	18	【アドバイザー】スポーツコミッションおおがた(仮称):設立準備委員会(中山事務局長)=中止	秋田県大潟村
	23	第 31 回理事会(メール審議にて実施)	
	24	【会議】自由民主党「スポーツ立国調査会」テーマ『新型コロナウイルス感染症対応を踏まえたスポーツ推進方策について』(中山事務局長)	自民党本部
通 年	31	【アドバイザー】スポーツコミッションおおがた(仮称):設立総会(中山事務局長)=中止	秋田県大潟村
		【アドバイザー】沖縄県スポーツコンベンション誘致戦略 報告書監修(中山事務局長)	
		【執筆】笹川スポーツ財団「スポーツ白書」(原田会長・中山事務局長)	

2 | SportAccord Convention 2019



○日 時: 2019年5月5日(日)～10日(金)

○場 所: ゴールドコースト(オーストラリア)

○共同出展: 梓設計
金沢文化スポーツコミッション
関西ワールドマスタースゲームス 2021 組織委員会
札幌市スポーツ局/さっぽろグローバルスポーツコミッション



★スポーツアコードとは？



※GAISFメンバー

・95国際スポーツ団体【IF】

・20準会員団体

英連邦大会、欧州放送連合、マスターズゲームス、地中海大会、軍隊スポーツ大会、マインドスポーツ、パラリンピック、スペシャルオリンピックス、大学スポーツ連合、スポーツ施設、スクールスポーツ、ワールドゲームス 等

・2017年4月 GAISF名称が復活

・GAISF構成団体：①オリンピック夏季大会競技団体連合(ASOIF) 28競技

②オリンピック冬季大会競技団体連合(AIOWF) 7競技

③IOC公認競技団体連合(ARISF)=オリンピックプログラムに含まれない42競技

④独立系IOC公認競技団体連合(AIMS)=上記3団体に含まれない18競技

剣道、合気道、柔術、ソフトテニス、囲碁、ドラゴンボート、セパタクロール 等

⑤準会員団体(Associate Members) 20団体

・SportAccord Conventionは2018年よりGAISF (GLOBAL Association of International Sports Federations: 国際競技団体総連合)の会議として開催。SportAccordは会議・イベントのブランド名として展開。

会議体: SportAccord /SportAccord Pan America/IF Forum

総合競技大会: World Urban Games/World Combat Games

・世界のスポーツ保護、情報・課題共有、協力強調が目的

2

★GAISF・メンバー



FULL AND ASSOCIATE MEMBERS

All over the world

SportAccord is the umbrella organisation for Olympic and non-Olympic international sports federations as well as organisers of international sporting events. Our mission is to UNITE and SUPPORT our members.



★スポーツアコードコンベンション開催実績

※1999年旧称GAISF総会(大阪)

- 第1回(2003年5月12日～17日)マドリード(スペイン)
- 第2回(2004年5月15日～20日)ローザンヌ(スイス)
- 第3回(2005年4月16日～20日)ベルリン(ドイツ)
- 第4回(2006年4月3日～7日)ソウル(韓国)
- 第5回(2007年4月23日～27日)北京(中国)
- 第6回(2008年6月2日～6日)アテネ(ギリシャ)
- 第7回(2009年3月23日～27日)デンバー(アメリカ合衆国)
- 第8回(2010年4月26日～30日)ドバイ(アラブ首長国連邦)
- 第9回(2011年4月3日～8日)ロンドン(イギリス)
- 第10回(2012年5月21日～26日)ケベックシティ(カナダ)
- 第11回(2013年5月26日～31日)サンクトペテルブルグ(ロシア)
- 第12回(2014年4月6日～11日)ペレク/アンタルヤ(トルコ)
- 第13回(2015年4月19日～24日)ソチ(ロシア)
- 第14回(2016年4月17日～22日)ローザンヌ(スイス)
- 第15回(2017年4月2日～7日)オーフス(デンマーク)
- 第16回(2018年4月15日～20日)バンコク(タイ)
- 第17回(2019年5月05日～10日)ゴールドコースト(オーストラリア)

※JSTAは2012年より参加、2013年より自治体・企業等とJAPAN共同ブース出展



★SportAccord 2019 Partners

Gold Partners



Host City Partners



Silver Partners



Delivery Partners



Bronze Partners



Supporters



★スポーツアコード2019の参加目的

6

●JSTA代表としての参加～2012年ケベック以来8回目参加

- ・スポーツ団体、スポーツイベントライツホルダー・開催都市等とのネットワーキングによる情報収集を行う
- ・世界のスポーツ界の動向把握する
- ・2017年にGAISFが復活し、IFの結束が固まり、IOCとの関係も強化された、SportAccord Conventionそのものの位置づけを探る
- ・Tokyo2020に向けた日本・東京に対する注目度アップを図る
- ・コンベンション会期中、スポーツイベント開催都市の横断的な組織体であるIAEH Forumに参加する

●JSTA・自治体・企業等との共同ブース出展

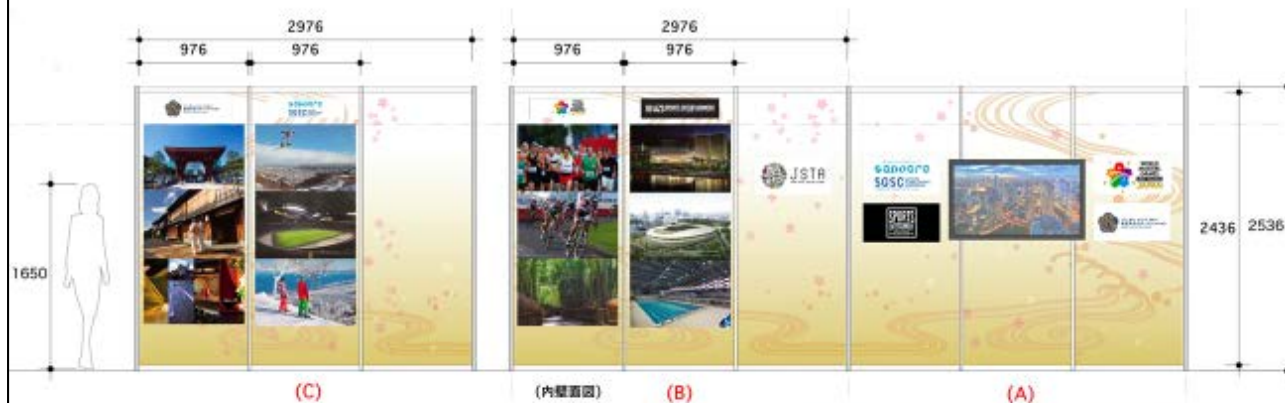
- ・札幌市スポーツ局/さっぽろグローバルスポーツコミッション・梓設計
- ・関西ワールドマスターズゲームス2021組織委員会・金沢文化スポーツコミッションの参加を得て2コマ規模の出展を行う

●2030年冬季オリンピック・パラリンピック招致都市動向を探る

- ・2030年冬季オリンピック・パラリンピック招致都市動向情報収集
- ・開催都市決定プロセスの情報収集



★JAPAN STAND#4-5デザイン



★Official Conference Program

カテゴリー	テーマ
SPORTACCORD SUMMIT	THE FUTURE OF BIG DATA AND ANALYTICS ●Why Big Data and Analytics Matter to Sport ●Next Level fan engagement for sport via big data and analytics ●TECHNOLOGY IN SPORT AND ATHLETE ENTREPRENEURSHIP ●Future Sports + Entertainment and Football federation Australia ●Marketing and Customer Behaviour ●The relationship between athletes, organization, manufacturer, legal and wearable technology and the data it captures ●Blockchain Technology I Sport ●Application of Artificial Intelligence(AI) within Sport ●Is technology threatening the spirit of sport ●WHAT IT ALL MEANS AND WHERE ARE WE GOING
CITYACCORD	MINDFUL EVENT HOSTING/Respecting the Past with a View to the Future ●Rise of the Smart Stadium ●TOOL BOX SESSIONS: Innovative City/Event Ticketing Approaches ●Major Event fan safety in Areas, cities, fan zones-what cities and event organisers are doing to protect their fans and their reputation ●Nitoro Circus and Sport Destination Cities Branding ●Destination Cities Branding – What Works?!
CITY-TO-CITY	Hosting non-Conventional Events: What's in it for a city? Why host non-conventional events? ●Part1: Hosting non-conventional events ●Part2: E-sport & break-out session

★Official Conference Program

カテゴリー	テーマ
LAWACCORD	KEY OPPORTUNITIES, CHALLENGES AND THREATS TO INSTITUTIONAL SPORT - FROM WITHIN AND WITHOUT ●GOOD GOVERNANCE is crucial to the success of sport organisations - but is GREATGOVERNANCE possible? ●Getting and keeping our House in Order – Starting with the Person in the Mirror ●ANNUAL CAS UPDATE: Hot Topics and Recent Case Impacts ●INTRODUCTION TO THE CAS ANTI-DOPING DIVISION: Everything you need to know ●FIRESIDE CHAT WITH SIR CRAIG REEDIE ●ANTI-DOPING PANEL SESSION: Keeping the Playing Field Level ●1-ON-1 DISCUSSION THE FIGHT AGAINST MATCH-FIXING ●MATCH-FIXING Q&A: Quick wins and reaching compliance in the prevention against matchi-fixing from within the Olympic Movement ●RIVAL LEAGUES/COMPETITIONS SCENE SETTER: What can sport bodies do to protect their structure and events from rival structures. How has the US Franchise model addressed this? ●RIVAL LEAGUES/COMPETITIONSPANEL SESSION: How to Manage the Emergence of Rival Leagues and other Legal Considerations

★Official Conference Program

カテゴリー	テーマ
MEDIAACCORD	TAKING THE LEAD/MEDIA'S EVER IMPORTANT ROLE AND CONTRIBUTION TO SPORT AND SOCIETY ● MEDIA WATCH: The big picture with an Australian point of view ● CASE STUDY: New Zealand and Women in Sport ● PANEL SESSION: Women in Sport Media ● DEBATE: Major Event Bidding and Media ● CASE STUDY: Brand architecture and social media monetisation for Federations and athletes
HEALTHACCORD	THE POWER OF SPORT – THE POWER TO CHANGE ● SCENE SETTER AND FIRESIDE CHAT: Mental Health ● PANEL SESSION: Mental Health ● TECH SESSION: Short-Mid Long-Term Monitoring of Athlete Injuries ● PANEL SESSION: Supplements and their effect on elite and recreational athletes ● SCENE SETTER: Wearable Sensors ● PANEL SESSION: Wearable Sensors: Pros and Cons for Athletes, Ifs, and Manufacturers



★IAEH(国際スポーツイベント開催都市連合) FORUM

※SportAccord Convention会期中に開催

INTERNATIONAL ASSOCIATION OF EVENT HOSTS

Cities, regions and countries hosting major sporting and cultural events

●IAEH (国際スポーツイベント開催都市連合) 年次総会

(1) 記念講演: 2018年英連邦大会@ゴールドコーストの効果とレガシー

(2) 予算・決算、事業計画、執行部役員メンバー 承認

(3) NETWORKING 懇親会

2019年11月第26回 TAFISAワールドコンGRESS2019東京

スポーツ・フォー・オール とオリンピック開催都市連合との合同セッション 開催発表

ANNUAL FORUM

Gold Coast, Australia
06 MAY 2019

★IAEH(国際スポーツイベント開催都市連合)FORUM

※2017年設立（英国法人）、JSTAは設立当初よりメンバー



3 | 第7回スポーツ振興賞



○応募期間：2019年1月10日～3月11日（当日消印有効）

○表彰式：5月22日「SPORTEC for LEISURE & GAME」会場内において開催

○応募件数：23件

○受賞作品：

★スポーツ振興賞 大賞

受賞者：認定NPO法人プール・ボランティア

作品名：泳ぐ社会貢献（水の世界もバリアフリーに！）

★スポーツ振興賞 各賞

○スポーツ庁 長官賞

受賞者：日光トレイルランニング実行委員会

作品名：世界遺産×山岳スポーツ

～日光を愛する人々と地域住民で作り上げた

「日光国立公園マウンテンランニング大会」～

○観光庁 長官賞

受賞者：SAMURAI TRIP

作品名：外国人向け剣道体験ツアーSAMURAI TRIP

○経済産業省 商務・サービス審議官賞

受賞者：住友生命保険相互会社

作品名：スミセイ “ Vitality Action ” の取り組みについて

○日本商工会議所 奨励賞

受賞者：一般社団法人 STREET RUGBY ALLIANCE

作品名：STREET RUGBY

○一般社団法人日本スポーツツーリズム推進機構 会長賞

受賞者：株式会社銚子スポーツタウン

作品名：廃校をスポーツ合宿施設に再生しスポーツツーリズムの拠点に

○公益社団法人スポーツ健康産業団体連合会 会長賞

受賞者：一般社団法人アントラーズ ホームタウン DMO

作品名：インバウンド スポーツ合宿による地域活性化



スポーツ振興賞 募集要項

第7回

公益社団法人スポーツ健康産業団体連合会と一般社団法人日本スポーツツーリズム推進機構では、「第7回スポーツ振興賞」の募集を行っています。スポーツや障がい者スポーツを通じて健康づくりをし、ツーリズムや産業振興、地域振興（まちづくり）に貢献されている団体、グループ、企業の方々の積極的なご応募をお待ちしています。表彰はスポーツ振興大賞 他6点です。※ 過去に受賞された方も大賞受賞者を除き応募対象となります。奮ってご応募ください。

応募締切／2019年3月11日（月）（当日消印有効）

■応募方法

応募にあたっては、下記の選考基準を勘案して以下の書類を作成し、（公社）スポーツ健康産業団体連合会宛、お送り下さい。書類はプリントアウトしたものと電子データを併せてお送り下さい。

①エントリーシート

②本文（様式は特に定めませんが、下記内容を簡潔にお書き下さい。）

スポーツを通じた健康づくり及びスポーツを起爆剤としたツーリズムや産業振興・地域振興（まちづくり）の貢献、活動の経緯、活動組織の内容、特筆すべき点、今後の展開などの活動内容

③要約（②の本文を500字程度でまとめたもの）

④写真（写真は10枚程度、必ず説明文を書き添えてください。写真データがあればご送付ください。）

なお、動画素材の提出はご遠慮ください。ホームページをお持ちの場合、URLを載せていただいても結構です。）

※応募書類は返却いたしませんので、あらかじめご了承ください。

■選考方法

応募のあったものの中から、（公社）スポーツ健康産業団体連合会と（一社）日本スポーツツーリズム推進機構が共同で設置するスポーツ振興賞選考委員会において選考の上、決定します。

■選考基準

【健康づくり・まちづくり】 スポーツや障がい者スポーツを通じて健康づくりをしているか。スポーツや障がい者スポーツを起爆剤としてツーリズムや産業振興、地域振興（まちづくり）に貢献しているか。

【市民参加】 市民が積極的に参加できる仕組みがつくられているか。

【事業の健全性】 事業の内容及び活動が健全であるか。

【交流・連携】 国内外を問わず交流や連携が行われているか。

【継続・発展】 活動が継続的に行われ、将来の発展性が見られるか。

【評価】 参加者、市民、自治体に評価されているか。

【望ましい事項】 独創性に富んでいる。イメージ向上に貢献している。新聞、テレビ、ラジオ等で取り扱われている等。

■表彰内容

★スポーツ振興大賞 1点 …… 賞状、トロフィー、副賞20万円

★スポーツ振興賞 各1点 …… 賞状、トロフィー

- | | |
|----------------------|--------------------|
| ・スポーツ庁長官賞（予定） | ・観光庁長官賞（予定） |
| ・経済産業省商務・サービス審議官賞 | ・日本商工会議所 奨励賞 |
| ・日本スポーツツーリズム推進機構 会長賞 | ・スポーツ健康産業団体連合会 会長賞 |

■審査結果発表、表彰式、受賞者による事業発表

- 審査結果の発表は2019年4月下旬を予定。スポーツ健康産業団体連合会、日本スポーツツーリズム推進機構のホームページにおいて受賞者の活動内容を広く周知するとともに、報道機関にもプレスリリースすることにしております。
- 表彰式は、2019年5月22日開催の「SPORTEC2019展示会（東京ビッグサイト／スポーツ健康産業団体連合会 特別協力）」の席上を予定しています。
- 表彰式後、受賞者による受賞事業の活動発表を予定しています。

【書類送付先・お問合せ】

公益社団法人スポーツ健康産業団体連合会 事務局（担当：板垣）

住 所：〒106-0032 東京都港区六本木6-2-33 六本木ヒルズノースタワーアネックス3F

TEL：03-6434-9510 FAX：03-6434-9511

E-mail：jshif@spo-danren.jp URL：<http://www.jsif.or.jp/>

平成31年4月24日

第7回スポーツ振興賞の発表(案)
～東京ビッグサイトで授賞式を開催～

公益社団法人スポーツ健康産業団体連合会(東京都港区 会長 斎藤敏一)と一般社団法人日本スポーツツーリズム推進機構[JSTA](東京都港区 会長 原田宗彦)は、スポーツ振興賞選考委員会の審査を踏まえ、スポーツや障がい者スポーツを通じて健康づくりをし、ツーリズムや産業振興、地域振興(まちづくり)に大きく貢献した団体、企業等を顕彰するとして第7回スポーツ振興賞の各賞の授賞作品を発表します。

応募総数23件の作品の中から最も優れた作品に「スポーツ振興大賞」を、優れた作品に「スポーツ振興賞」として、スポーツ庁長官賞、観光庁長官賞、経済産業省商務・サービス審議官賞、日本商工会議所奨励賞、日本スポーツツーリズム推進機構会長賞、スポーツ健康産業団体連合会会長賞の6点を選定しました。授賞式は、来る5月22日(水)に東京ビッグサイト(東京都江東区)の会場で行います。

1. スポーツ振興賞選考委員会で慎重、厳正に審査した結果、以下の作品を授賞作品として決定した。

★スポーツ振興大賞

作品名: 泳ぐ社会貢献(水の世界もバリアフリーに!)

応募者: 認定NPO法人プール・ボランティア(大阪府大阪市)

★スポーツ振興賞

○スポーツ庁 長官賞

作品名: 世界遺産×山岳スポーツ～日光を愛する人々と地域住民で作りに上げた
「日光国立公園マウンテンランニング大会」～

応募者: 日光トレイルランニング実行委員会(栃木県日光市)

○観光庁 長官賞

作品名: 外国人向け剣道体験ツアーSAMURAI TRIP

応募者: SAMURAI TRIP(東京都大田区)

○経済産業省 商務・サービス審議官賞

作品名: スミセイ“ Vitality Action ”の取組みについて

応募者: 住友生命保険相互会社(東京都中央区)

○日本商工会議所 奨励賞

作品名: STREET RUGBY

応募者: 一般社団法人 STREET RUGBY ALLIANCE(東京都中央区)

- 一般社団法人日本スポーツツーリズム推進機構 会長賞
作品名：廃校をスポーツ合宿施設に再生しスポーツツーリズムの拠点に
応募者：株式会社銚子スポーツタウン（千葉県銚子市）
- 公益社団法人スポーツ健康産業団体連合会 会長賞
作品名：インバウンド スポーツ合宿による地域活性化
応募者：一般社団法人アントラーズ ホームタウン DMO（茨城県鹿嶋市）

2. 選考委員の受賞作品に対する意見は次のとおり。

- 作品名：泳ぐ社会貢献（水の世界もバリアフリーに！）
応募者：認定NPO法人プール・ボランティア（大阪府大阪市）
誠に地道ながら 20 年間、弛まず活動を続け市民権を得た仕組みとされた功績は誠に大。社会課題の解決への果敢な取り組みで限られた環境の中で、できることから取り組みをはじめ、今や大きな活動に育っている。4,000 人の泳げるボランティアを拡大してきた努力も流石。障がい者やその保護者にも配慮し、いずれも楽しめる内容としている。障がい者のスポーツ普及に貢献しており、今の日本に必要な社会として大切な取り組み。継続性もあり、同様の NPO が全国に設立されたら素晴らしい。
- 作品名：世界遺産×山岳スポーツ～日光を愛する人々と地域住民で作り上げた「日光国立公園マウンテンランニング大会」～
応募者：日光トレイルランニング実行委員会（栃木県日光市）
世界遺産や国立公園を走るという自然を活かした立体的な取りくみ（文化とスポーツの掛け合わせ）である。世界遺産二社一寺の関係者の協力を得るユニークな大会で、トレイルランの魅力に加えて世界遺産エリアの魅力が加味された興味深いコースになっている。廃棄したスキー場の利活用という視点がユニークで回を重ねて良くなっている。地域活性化の手法としてのスポーツ活用例で、世界遺産が後押ししている。行政、補助金に頼らない大会運営をしている。
- 作品名：外国人向け剣道体験ツアーSAMURAI TRIP
応募者：SAMURAI TRIP（東京都大田区）
剣道体験をインバウンドのコンテンツにするユニークな取組み。武道ツーリズムのコンテンツとして評価できる。スポーツ体験以外にも、工場見学や和食体験がある。スポーツ×日本文化×インバウンドという掛け算の事業であり、実績もあり、発信力が高い。今後の広がりが期待できる。2017 年 4 月～世界 30 ヶ国 1,346 名のゲスト。

○作品名：スミセイ “ Vitality Action ” の取組みについて

応募者：住友生命保険相互会社（東京都中央区）

CSVプロジェクトの推進は今後の企業経営の一つの指針となる。取組み規模は大きく、参加者数も多数。発信力も高く、企業の事業とも連携し、社会的にも大きな好影響を及ぼす取り組みである。開始後2年間ですが、すでに全国74都市での開催実績は高く評価できる。分野別のトップアスリートの起用という手法ですが市民からみても親しみやすい事業になっている。生保らしい取組。自治体などとの連携によるプロジェクト推進体制は、大企業ならではの取組である。

○作品名： STREET RUGBY

応募者：一般社団法人 STREET RUGBY ALLIANCE（東京都中央区）

なかなか身近に感じることの少ないラグビーをストリートラグビーという形で普及を図ろうとする素晴らしい取組み。ラグビーに注目が集まる環境の中での、大々的な取り組み。初心者を含めた老若男女が楽しめ、場所の制限がなく実施できる。アスリートと市民の触れあいの場でもあり、街づくりに一役かっている。女性・障がい者・高齢者等幅広い年代の参加により、「ダイバーシティ」の推進である。スポーツ参加人口の増加につながり、盛り上がりを見せているストリートスポーツ。まだまだ知名度は低いですが、これからの拡大に期待する。

○作品名：廃校をスポーツ合宿施設に再生しスポーツツーリズムの拠点に

応募者：株式会社銚子スポーツタウン（千葉県銚子市）

全国各地で取り組みが進んでいる廃校再利用の一つであるが、増え続ける廃校を有効に活用している好事例である。廃校をスポーツ合宿の拠点にという発想と事例は少なくないが、この事例のような恵まれた環境はあまり聞いたことがない。今後の活用の大きな可能性が期待できる。廃校の再生プロジェクトとしてこれからの発展に期待したい。

○作品名：インバウンド スポーツ合宿による地域活性化

応募者：一般社団法人アントラーズ ホームタウン DMO（茨城県鹿嶋市）

鹿島アントラーズのブランドと域内施設を活用した取り組みで海外からの合宿受け入れを行い、宿泊を多く創出している。サッカーアントラーズのホームタウンとしてインバウンドのサッカー合宿に注目したのは good !! サッカーチームが、地元と密接に連携し、スポーツを通じた、街の課題解決に取り組んでいる。日本には前例のない「インバウンドスポーツ合宿ビジネス」の事業であり、初年度から手ごたえのある成果を得ている。今後のビジネスとして継続的に発展できるオペレーションモデルの構築も期待できる。インバウンドスポーツ合宿という新しいジャンルへの挑戦が評価でき、アントラーズの行う独創的なDMOインバウンドで確実な成果が出ている。【2018年度設立以来9ヵ国、合計1,596の宿泊創出】

☆スポーツ振興大賞☆	
作品名 応募者	泳ぐ社会貢献（水の世界もバリアフリーに！） 認定NPO法人プール・ボランティア（大阪府大阪市）
作品の概要 プール・ボランティアは、1999 年に大阪で設立した日本で最も古いスポーツ NPO、事業型 NPO です。「水の世界もバリアフリーに！」を合言葉に、今では年間延べ約 4,000 名の障害者を延べ 4,000 名を超える「泳げるボランティア」がマンツーマンで水泳指導をしています。職員は元水泳選手であり、ビジネスマンであり、障害者に関しては全くの「ど素人」だからこそできるユニークな取り組みが特徴です。 障害者専用プールを使わず一般の市民プールで泳ぐ、保護者は一緒に入水しない、完全マンツーマン体制、どんな障害でも受け入れる、障害者は最新のおしゃれな水着、スポンサー名の入ったお揃いのスイムキャップを着用、また、車いすに乗ったままプールに入ることができるプール用車いすを独自に製作したり「自宅からプールまでの引率」「お着替え」「プール指導」の分業制などを取り入れたりしています。 他にも、東京都庁福祉保健局から特別な許可をいただき「ヘルプマーク・スイムキャップ」を考案して全国に無償配布しています。大阪マラソンのオフィシャル寄付先団体に 4 年連続採択され、昨年の 2018 年には「認定 NPO」を取得しました。「プール・ボランティア」は、登録商標です。	

☆スポーツ振興賞（6 作品）		
ス ポ ー ツ 庁 長 官 賞	作品名	世界遺産×山岳スポーツ～日光を愛する人々と地域住民で作り上げた「日光国立公園マウンテンランニング大会」～
	応募者	日光トレイルランニング実行委員会（栃木県日光市）
	作品の概要 日光国立公園マウンテンランニング大会は、「2015 年 9 月の台風 18 号の被害を受けた日光・鬼怒川に元気を取り戻したい」と願う地元の皆さんと日光を愛する若者によって立ち上げたトレイルランニングの大会です。2016 年 11 月に第 1 回大会を開催し、2018 年の第 3 回大会では国内外より約 1500 名が参加する大会へと成長致しました。日光は、世界遺産二社一寺を有する歴史と文化に所縁のある地域であり、大会を通じて日光の歴史を多くの人々に伝えていきたいという想いから、日光東照宮表参道をメイン会場として大会を開催しています。 また、廃業した旧霧降スキー場や旧霧降牧場跡地をコースに設定し、地域に埋もれていた場所を再利用しました。商店街の方々の協力を得て地元の名産品をエイドで提供したり、日光市内の中高生や自治会等多くの方々がボランティアとして参加したりと、地域の皆さんと一緒に大会を作り上げています。今後は、一年を通じて日光の歴史と自然を体験してもらえるようなエコツーリズムの取り組みや、外国人観光客の多い日光の地の利点を生かしたプロモーション戦略等を進めていきたいと思っています。	

観 光 庁 長 官 賞	作品名	外国人向け剣道体験ツアーSAMURAI TRIP
	応募者	SAMURAI TRIP（東京都大田区）
経 済 産 業 省 商 務 ・ サ ー ビ ス 審 議 官 賞	作品の概要	外国人向け剣道体験ツアーSAMURAI TRIP では、年間 1,000 名を超える訪日外国人に本格的な剣道の体験アクティビティを提供している。体験アクティビティとして、剣道体験・剣道具製作工房見学・剣道レストランでの和食体験の 3 アクティビティを用意し、スポーツとしての側面と武道文化としての側面の双方を広く伝えている。現在、東京、大阪、京都、札幌、福岡の各都市にて剣道体験ツアーを催行しており、2017 年 4 月のスタート時から世界 30 カ国 1,346 名のゲストを受入れ、80%を超えるゲストから 5 つ星レビューを獲得。全日本剣道連盟、全日本道場連盟、スポーツ庁とも連携しており、スポーツ国際貢献事業「SPORT FOR TOMORROW」のコンソーシアム会員でもある。また、NHK World、NHK、TBS、テレビ東京、スウェーデン国営放送 SVT 等のテレビ局のほか、各旅行メディアや著名 Youtuber 等、国内外問わずメディア出演を果たしている。今後は日本全国多都市展開のほか、海外剣道家向けの剣道キャンプの実施、海外の旅行会社やクルーズ船会社との包括提携等を行い、年間受入人数 10,000 名を目指す。
	作品名	スミセイ “ Vitality Action ” の取り組みについて
	応募者	住友生命保険相互会社（東京都中央区）
	作品の概要	住友生命では、本業を通じて「健康寿命の延伸」という社会的課題の解決に取り組んでおります。この取り組みを「CSV プロジェクト」と位置づけ、「お客さま」・「社会」・「会社・職員」とともに、健康増進という新しい共有価値を創造することで、日本の健康寿命の延伸を目指しています。スミセイ “Vitality Action” は、この CSV プロジェクトの柱のひとつ、「社会全体への健康増進の働きかけ」の具体的な社会貢献事業として、2017 年度の住友生命創業 110 周年の節目にスタートしたプロジェクトです。 本プロジェクトは、1 つの組織だけでなく、自治体や財団、研究者、アスリート等様々な皆さまのご協力を得ながら健康寿命の延伸を推進していく「コレクティブインパクト」という手法を活用しており、趣旨に賛同いただいた様々な種目のトップアスリートを講師にお迎えし、全国 110 箇所親子スポーツイベントや大規模ランイベントを開催し、健康増進に向けた「行動促進」を図っています。また、弊社関連財団と連携し全国にて“健康”をテーマとしたセミナー・イベントの開催や、啓発冊子の配布等を通じて健康増進への「理解促進」を図るプロジェクトとなっています。

日本 商 工 会 議 所 奨 励 賞	作品名	STREET RUGBY
	応募者	一般社団法人 STREET RUGBY ALLIANCE（東京都中央区）
ス ポ ー ツ ー リ ズ ム 推 進 機 構 会 長 賞	作品の概要	ストリートラグビーとは3人対3人で時間は1分間の試合です。参加者はトライを目指し18m×7mのスペースを駆け回り、タックルの代わりにタッチでディフェンスを行い接触や転倒を防ぐ。初めての方でも安全で安心して楽しめるゲームです。フィジカルヘルスとメンタルヘルスの双方からのアプローチで健康づくりができます。頻繁な攻守の入れ替わりやボールのパスキャッチにより、空間認識機能向上や認知症等の予防等にも繋がります。また、年齢格差の無い心身の健康増進を図り、他者とのつながりを自覚し自己存在、自己価値の確認を促します。ストリートラグビーは健康寿命の延伸、まちにおけるソーシャルキャピタルの向上をテーマとしています。 3年以上にわたる継続的な発展と広がりにより昨年の開催は日本全国40箇所以上、参加者の累計は約2万人。人々が競技場に足を運ぶのではなく、フィールド自体が人々の集まる場へ設置されます。スポーツ経験の有無を問わず国籍を問わず、老若男女・障害者の人々が交流できる仕組みとしてのストリートラグビーをさらに発展させ、新しいかたちでのスポーツ振興、スポーツにおけるまちづくりを実現させます。2019年ラグビーワールドカップ日本開催の盛り上げにも力を入れています。
	作品名	廃校をスポーツ合宿施設に再生しスポーツツーリズムの拠点に
	応募者	株式会社銚子スポーツタウン（千葉県銚子市）
	作品の概要	35年前に90,000人の人口が、今年は62,000人を下回りました。2014年5月、NPO法人銚子スポーツコミュニティーを設立し、観光とスポーツの融合による地域活性化の事業を自分たちで企画実行しました。銚子市内には、スポーツ者向けの宿泊施設がない事に気がつき、そのニーズが確実にあることがわかりました。1965年夏の甲子園準優勝投手の木樽正明さんが、故郷の銚子市に戻ってきました。銚子市の野球を復活させ、地域活性化をとの思いでした。我々と意気投合し、廃校となった旧市立銚子西高校を視察に行き、それがスポーツ合宿施設にリノベーションが出来ることに気づき、企画書を作成しました。 NPOの仲間は、始めは反対者もいましたが出資し、銚子市が半分を出資する株式会社銚子スポーツタウンを設立。銚子スポーツタウン協議会を設立し、市内外の事業所と組織と連携を結んでいます。2017年7月に建設工事を着工、2018年2月に工事が完了。経営理念は、銚子スポーツタウンを拠点として、銚子市経済の活性化を図ることです。銚子スポーツタウンは、旧銚子市立西高校をリノベーションした宿泊・スポーツ施設です。施設内に、グラウンド・体育館・多目的に使えるお部屋を完備！様々なスポーツ合宿や企業研修、企業運動会に対応します。

スポーツ健康産業団体連合会 会長賞	作品名	インバウンド スポーツ合宿 による地域 活性化
	応募者	一般 社団法人アントラーズ ホームタウン DMO（茨城県鹿嶋市）
作品の概要 茨城県県東の鹿行地域で、スポーツツーリズムを中心に地域振興を行うアントラーズホームタウン DMO は、海外からのインバウンドスポーツ合宿事業を行っています。鹿行地域は日本の玄関でもある成田空港からアクセスが良く、クラブワールドカップの健闘や ACL 優勝によって世界的に知名度を上げている鹿島アントラーズのホームタウンでもあり、地域内に 100 面以上のサッカーグラウンドを有している合宿地のメッカでもあることから、インバウンドスポーツ合宿の事業行う上でとてもポテンシャルが高い地域だと考えています。 設立初年度の 2018 年度から 9 カ国（中国、香港、台湾、韓国、ベトナム、タジキスタン、スリランカ、東ティモール、キルギス）から合宿受入を行い、合計 1,596 の宿泊創出を実現しました（日本人受入も含めると 2,000 宿泊超）。立ち上がりとして想定を超える合宿受入数で、各自治体や宿泊施設からも大きく喜ばれ市民からも注目を集め始めています。訪れたチームと地元チームの交流戦を行うなど、育成年代の国際交流の場として市民参加の機会も生まれています。インバウンドスポーツ合宿という国内でも前例のない事業ですが、継続的に発展させ、今後は更なる地域振興に繋げてまいります。		



4

SPORTEC for LEISURE & GAME SPORTEC WEST2019



■SPORTEC for LEISURE & GAME

- 日 時:2019年5月22日(水)～24日(金)
- 場 所:東京ビッグサイト 西ホール
- 主 催:SPORTEC実行委員会
- 共 催:一般社団法人日本スポーツツーリズム推進機構 ほか
- 来場者:16,014 名(3 日間)

【5月22日(水)】

＜第7回スポーツ振興賞 授賞式＞

スポーツ振興賞受賞者による発表とディスカッション(会場内ブースにてパネル展示)

【5月23日(水)】

＜2019 年度定時社員総会＞

＜JSTA スポーツツーリズム需要拡大戦略セミナー＞

「スポーツツーリズム需要拡大のためのデジタルマーケティング戦略」

- ・講演 1 日本政府観光局(JNTO) 企画総室デジタルマーケティング室長 吉田 憲司 氏
- ・講演 2 スポーツ庁 参事官(地域振興担当)増井 国光 氏
- ・講演 3 グーグル合同会社 観光立国推進部長 陳内 裕樹 氏



【5月24日(木)】

<JSTA セミナーin SPORTEC ①・②>

①「スポーツで人を動かすマネジメント」

- ・講演 1 株式会社ルネサンス 事業サポート部 トラベルチーム 課長 南方 慎治氏
- ・講演 2 株式会社ラントリップ 代表取締役 大森 英一郎氏

②「スポーツツーリズムの最前線」

- ・講演 1 公益財団法人講道館 図書資料部長 村田 直樹氏
- ・講演 2 有限会社エクストレモ 代表取締役社長 我部 乱氏

■SPORTEC WEST2019

○日 時:2019年11月20日(水)～22日(金)

○場 所:インテックス大阪

○主 催:SPORTEC実行委員会

○後 援:一般社団法人日本スポーツツーリズム推進機構 ほか

○来場者:17,257 名(3 日間)

【11月21日(木)】

<JSTA セミナーin SPORTEC WEST>

「大阪ベイエリアにおけるスポーツエンタテインメントの未来」

- ・講演 1 ヒューマンプランニング株式会社(B.LEAGUE 大阪エヴェッサ)
代表取締役 安井 直樹氏
- ・講演 2 MGM リゾーツ・インターナショナル コーポレートエンターテインメント
バイスプレジデント・インターナショナルエンターテインメント&ブッキング
エイミー・チャイ(Amy Chai)氏
- ・パネルディスカッション
ヒューマンプランニング株式会社(B.LEAGUE 大阪エヴェッサ) 代表取締役 安井 直樹氏
MGM リゾーツ・インターナショナル コーポレートエンターテインメント
バイスプレジデント・インターナショナルエンターテインメント&ブッキング エイミー・チャイ氏
<コーディネーター:原田宗彦(JSTA 代表理事)>



5 | アーバンスポーツサミット2019



- 日 時:2019年10月23日(水)13時30分～16時40分
- 場 所:コンベンションルーム AP 渋谷道玄坂(渋谷シネタワー) 11 階
- 主 催:一般社団法人日本スポーツツーリズム推進機構(JSTA)
一般社団法人日本アーバンスポーツ支援協議会(JUSC)
- 後 援:一般社団法人渋谷未来デザイン
- 参加人数:93名(会員、一般すべて含む)

開会挨拶／基調講演①「アーバンスポーツ都市戦略」

一般社団法人日本スポーツツーリズム推進機構 会長 原田 宗彦

基調講演②「渋谷×アーバンスポーツによる街づくりプロジェクト」

渋谷区長 長谷部 健氏

パネルディスカッション

- ・渋谷区長 長谷部 健氏
 - ・日本電気株式会社 東京オリンピック・パラリンピック推進本部長 水口 善博氏
 - ・一般社団法人 全日本フリースタイル BMX 連盟 理事長 出口 智嗣氏
 - ・公益社団法人日本ダンススポーツ連盟 ブレイクダンス部門 石川 勝之氏
 - ・一般社団法人日本アーバンスポーツ支援協議会 副会長 太田 雄貴
- ＜コーディネーター＞
一般社団法人日本アーバンスポーツ支援協議会 専務理事 針谷 和昌

閉会挨拶

一般社団法人日本アーバンスポーツ支援協議会 副会長 岡崎 助一



6 | 第8回スポーツツーリズム・カンファレンス



- 日 時: 2019年11月16日(金)13時30分～18時10分
- 場 所: 日本財団ビル2階
- 主 催: 公益財団法人笹川スポーツ財団／一般社団法人スポーツツーリズム推進機構
- 後 援: 観光庁／スポーツ庁 ○特別協賛: 日本財団
- 参加人数: 128名(会員、一般すべて含む)





SASAKAWA SPORTS FOUNDATION

第8回 スポーツツーリズム・カンファレンス プログラム

第一部 13:30 ~

※公務等の都合により講演者や内容が一部変更となる場合がございます。

大会議室

主催者挨拶

原田 宗彦（一般社団法人日本スポーツツーリズム推進機構 会長）

渡邊 一利（公益財団法人笹川スポーツ財団 理事長）

基調講演 ①

<登壇者変更>

スポーツ庁 スポーツ戦略官（地域振興担当） 坂本 秀敬 氏

基調講演 ②



株式会社ミクシィ スポーツ事業部 事業部長 石井 宏司氏

東京大学大学院にて認知科学、教育×ITについて研究。1997年にリクルートに入社し、インターネット関連の新規事業、エンタテインメントの新規事業、地方創生コンサルティング、人材コンサルティング、事業再生などに従事。その後野村総合研究所にて経営コンサルティング、スポーツマネジメントコンサルティングに従事。アメリカにてスポーツ×ITのテーマのカンファレンスに多数参加。女子プロ野球リーグの事業再生、スポーツマーケティングラボラトリー執行役員などを経て、現在は株式会社ミクシィにてプロスポーツ事業部の統括を担当。千葉ジェッツ、FC東京、東京ヤクルトスワローズなどのビジネスグロースを担当。

セッション1 / 15:00 ~

『スポーツ・イベント人材マネジメントの最新事例』

大会議室



株式会社ヒト・コミュニケーションズ
ツーリズム事業本部長 兼
ラグビーワールドカップ 2019(TM) 日本大会統括
清野 智之氏

1979年生まれ、埼玉出身。平成20年ヒト・コミュニケーションズ入社、平成20年~22年モバイル営業本部、平成22年~28年東北支社 支社長、平成28年~現在ツーリズム事業本部 本部長。ツーリズム事業本部長の責任者として、観光・スポーツセクターに従事。ラグビーワールドカップなど様々なスポーツ領域の業務に着手。ラグビー事業ではボランティア運営、会場物販、ホスピタリティ事業、オフィシャルECストアの運営などのプロジェクトマネージャーとして指揮をとる。

コーディネーター：JSTA セミナー委員（株式会社シード） 古家 浩人



株式会社マイナビ
アスリートキャリア事業室 事業室長
木村 雅人氏

1976年東京都板橋区生まれ。2004年株式会社マイナビ入社。現在はアスリートキャリア事業室長としてアスリートの就労に関する事業を執行。また、大学スポーツ協会（UNIVAS）と「大学生アスリートの育成と就労」に関する共同事業の責任者としてUNIVASとともに奮闘中。アスリートが競技者としても引退後も活躍できる社会を実現させるために、アスリートと社会を繋ぐエコシステムの構築を目指す。

セッション2 / 15:40 ~

『インバウンドサービスの最前線』

大会議室



株式会社ナビタイムジャパン
インバウンド事業部 マネージャー
山崎 英輝氏

2015年4月株式会社ナビタイムジャパンに入社。インバウンド事業部に配属後、様々な自治体・企業とともに、デジタルを活用した訪日外国人の移動や地方創生に携わる。山梨県や福島県のインバウンド誘客事業を担当し、北海道開発局とともにドライブ観光を核としたインバウンド周遊促進に取り組んだ経験を活かし、スポーツツーリズム推進に取り組む。

コーディネーター：JSTA 事務局長 中山 哲郎



三井住友海上火災保険株式会社
公務開発部 開発室 主任
松本 研司氏

2013年 三井住友海上火災保険株式会社入社、関西企業営業第三部公務開発室へ配属。大阪府警察や大阪府、大阪市といった官公庁営業に3年間従事。2016年 厚生労働省へ出向。政策統括官付社会保障担当参事官室政策第二係にて、平成29年度・30年度の税制改正業務に従事。2018年 三井住友海上火災保険株式会社公務開発部開発室に帰任。厚生労働省や文部科学省、観光庁の施策を担当し、社会的な課題の解決に資する保険・サービスの開発に取り組んでいる。

主催：一般社団法人日本スポーツツーリズム推進機構（JSTA）/公益財団法人笹川スポーツ財団（SSF） 後援：観光庁・スポーツ庁 特別協賛：日本財団

セッション 3 / 16 : 30 ~

『ブース出展団体・法人によるプレゼンテーション』

大会議室

会議室 1・2 では、ブース出展を行っています。
併せてご覧ください。



※写真は過去開催時の参考画像です。

- シャチハタ株式会社 ビジネス戦略部 副部長 勝山 悦夫氏
「今までありそうでなかったスタンプラリー」
- 株式会社ブリックス 事業本部 AI ソリューション部 河野 勝樹氏
「AI 通訳・翻訳を活用した多言語ソリューション」
- 一般社団法人ルーツ・スポーツ・ジャパン 代表理事 中島 祥元氏
「サイクルツーリズム事業（ツール・ド・ニッポン）のご案内」
- 公益社団法人日本トライアスロン連合 事務局 次長 坂田 洋治氏
「パラトライアスロンのご紹介」

セッション 4 / 17 : 10 ~

『今、地域に必要とされるスポーツツーリズムとは』

大会議室



**Sports Local Act 株式会社 代表取締役
赤嶺 健氏**

大学時代は、関西学院大学体育会ボート部で、競技を通して体験する達成感・嬉しさ・悔しさを味わいスポーツにのめり込む。2017 年まで広告代理店に勤務し、クライアントの課題解決のために最適なメディアソリューションを提案することをモットーに営業として従事。2017 年 4 月、早稲田大学大学院スポーツ科学研究科（平田竹男研究室）にてスポーツビジネスを学ぶ。そして、2017 年 12 月、大学院で研究したことを事業化するべく、スポーツで地域創生をすることをミッションに掲げ、Sports Local Act を設立。



**東日本旅客鉄道株式会社 千葉支社
事業部 企画・地域共創課 副課長
利渉 敏江氏**

1989 年 JR 東日本入社。J リーグ参画に向けたサッカープロジェクトに配属となり、ジェフユナイテッド千葉の設立に携わる。1991 年同クラブに出向し、広報・宣伝業務を担当。2001 年 JR 東日本に復職後は、開発・地域活性化業務を担当し、地域と協働した施策を推進。現在は、千葉エリアにおいて、スポーツを切り口とした新たな視点でのまちの活性を目指し、地域関係者とともに各種企画に取組んでいる。早稲田大学大学院スポーツ科学研究科修了。

コーディネーター：JSTA セミナー委員（公益財団法人笹川スポーツ財団 スポーツ政策研究所 / 政策ディレクター） 吉田 智彦

ブース展示・商談スペース

コーヒーブレイク（休憩時間）のお茶・コーヒーを用意しております。

会議室 1・2

ブース展示 開場中自由にご覧ください（担当者が不在の場合もございます）セッション 3 では、各社プレゼンテーションを行います。

シャチハタ株式会社	今までありそうでなかったスタンプラリー
株式会社ブリックス	AI 通訳・翻訳を活用した多言語ソリューション
一般社団法人 ルーツ・スポーツ・ジャパン	サイクルツーリズム事業（ツール・ド・ニッポン）のご案内
公益社団法人 日本トライアスロン連合	パラトライアスロンのご紹介（車いすレーサー展示）

登壇者との商談

ご登壇後のご挨拶や商談の場としてご活用頂けるよう、会議室 1・2 にスペースをご用意しています。（一部登壇者除く）

懇親会

日本財団ビル 8 階食堂にて 18 : 00 より開始予定（参加費有料）
事前申込者の方のみご参加頂けます。（20:00 頃 終了予定）

◆次回 JSTA 主催イベントのお知らせ

●2020 年 1 月 16 日（木）第 8 回スポーツツーリズム・コンベンション in 金沢

主催：一般社団法人日本スポーツツーリズム推進機構（JSTA）／金沢市
金沢文化スポーツコミッション

会場：金沢市文化ホール（石川県金沢市高岡町 15 番 1 号）

※前日 1 月 15 日は、同会場で「第 4 回スポーツ文化ツーリズムシンポジウム」
（主催：スポーツ庁・文化庁・観光庁）を開催致します。併せてご参加ください。
<15 日のシンポジウムは、JSTA 主催イベントではありません>

スポーツツーリズムの教科書！
JSTA 編「スポーツツーリズム・ハンドブック」



2 階受付にて
会場特別価格で販売中
2,000 円（税込）

※領収書発行可



主催：一般社団法人日本スポーツツーリズム推進機構（JSTA）／公益財団法人笹川スポーツ財団（SSF） 後援：観光庁・スポーツ庁 特別協賛：日本財団

7

Youth & Winter Sports シンポジウム
ユースオリンピック冬季競技大会

○日 時： 2020年1月9日～22日
○場 所： ローザンヌ（スイス）



UNIL | Université de Lausanne

Congress of Youth & Winter Sports Lausanne 2020
University of Lausanne, 7-8 January 2020

&

Youth Olympic Games 2020(Lausanne)



出張期間：2020年1月7日～13日

出張者：原田 宗彦・中山 哲郎

出張目的：

(1) Youth and Winter Sports Congress参加

欧米のオリンピック研究者との情報交換

(2) 冬季ユースオリンピック競技大会視察

ユースオリンピック日本開催の可能性
競技大会運営の状況

(3) 2030年冬季オリンピック招致立候補都市

情報収集(1/8-10 IOC理事会・総会開催

JOC/札幌市 参加)

(1) Congress of Youth & Winter Sports Lausanne 2020
Day 1: Tuesday, January 7, Amphimax Building

8:30-8:45	Room 415 Opening F. Bussy, Vice-Rector in charge of Research et B. Kayser head of the ISSUL		
8:45-9:30	Room 415 Governance and legacy of the YOG M. Parent		
9:30-10:30	Room 412 Sport Organization (Chair: L. Schoch)	Room 413 Speed skating (Chair: G. Millet)	Room 414 Perceptual responses (Chair: R. Antonini)
9:30-9:50	Beijing 2022 and its impacts on the winter sport development in China M. Llorca Marketing Strategies to Engage Youth In Snow Sports	Pacing Strategy of Speedskating men's 1500 meters in Pyeongchang Winter Olympics	The effect of preferred and imposed music on physiological and psychological responses during passive recovery from intense exercise M. Al Kitani Cut yourself some slack: self-compassion does not impair self-improvement motivation
9:50-10:10	L. Delpey Neirotti The Swiss Ski Federation, an association focused on youth?	J. Feng The development of pacing behaviour of elite short-track speed skaters during adolescence: a longitudinal study.	P. Rothlin Sport psychological support of young elite athletes at the athletic retirement: An individual case study
10:10-10:30	S. Cala	S. Menting	E. Ruchti
10:30-10:45	Coffee break		
10:45-11:45	Room 412 How to prevent doping in youth sport? (Chair: M. Saugy)	Room 413 Decisive transition (Chair: Ø. Sandbakk)	Room 414 Alpine ski (Chair: K. Aminian)
10:45-11:05	Preventing doping in sport: what can we learn from elite cycling? B. Fincoeur ISU anti-doping prevention program "Pure as Ice"	Transitions as turning phases in athletic careers: An introduction Ø. Sandbakk Transitioning from junior to senior: Lessons learned from Swedish ice hockey	Giant Slalom course setting & performance difference from U14, U16 To Elite B. Bruhin Studying force patterns in an alpine ski boot and correlating data with riding style and falling mechanisms
11:05-11:25	C. Cardis Should we invite young athletes to blow the whistle?	N. Stambulova Transitioning from elite athlete-to-coach: Lessons learned from Norwegian winter sports.	F. Nimmervoll Effect of performance level on nGRF characteristics in Giant Slalom
11:25-11:45	P. Verschuren	S. Chroni Transitioning out of sport: The dual career support to Norway's elite athletes T. Hinze	C. Delhaye
11:45-12:45	Room 415 Biomechanics and Physiology in Nordic Skiing H. Holmberg		
12:45-13:30	Lunch break		
13:30-14:30	Room 415 History of the human-environment relationships in the Alps through the sport of skiing A. Denning		
14:30-15:30	Room 412 Is education a priority for the Olympic movement? (Chair: E. Bayle)	Room 413 Cross Country ski 1 (Chair: B. Kayser)	Room 414 Performance analysis (Chair: F. Borrani)
14:30-14:50	IOC presidents and the Olympic youth, from Pierre de Coubertin to Thomas Bach P. Clastres Is education a priority for anti-doping stakeholders?	Development of Laboratory Capacities in Chinese Endurance Athletes Participating in an XC Skiing Athlete-Transfer Program R. Tahnes The difference in subjective and objective training intensity during high-intensity interval training in junior cross-country skiers: Do mind physical preparation of competitive youth snowboarders, freeskiers and alpine skiers tell the same story? R. Perl	Sensor and Video Based Performance Analysis for Winter Sports J. Patton Neuromuscular testing using force-plates and an overview of the competitive youth snowboarders, freeskiers and alpine skiers McPhail Accelerating Success
14:50-15:10	F. Ohi Education, inspiration, engagement, empowerment – a continuum with a variety of impacts	Do the cross-country skiers selected from the national team show talent characteristics during their late teens?	
15:10-15:30	P. Furrer	C. Zoppirolli	M. Donner
15:30-16:00	Coffee break		
16:00-17:00	Room 412 Media and Olympic Sports (Chair: N. Bancel)	Room 413 Cross Country ski 2 (Chair: D. Malatesta)	Room 414 Nutrition (Chair: S. Terrier)
16:00-16:20	Gender Diversity in the Governance of International Sport Federations L. Schoch Television broadcasting: "Tanned" do not ski Media representations of African and South American athletes during Albertville 1992 Olympic Games A. Richard	Technique analysis in German youth cross-country skiing A. Eberhardt Beyond Gold Monitoring of stress and recovery in junior cross-country skiers during and after a training camp M. Zegers E. Bucher	Overview of the unique physiology and metabolism of youth athletes B. Gojanovic Nutritional requirements of youth winter sports athletes C. Donebly Practical considerations when implementing nutrition plans with youth athletes J. Fluck
16:20-16:40			
16:40-17:00			
17:00-18:00	Room 415 Biomechanics and prevention of injuries in Alpine Skiing E. Müller		
17:45-18:20	Room 410 RRMES Réseau Romand de Médecine de l'Exercice et du Sport		
19:00-21:00	Olympic Museum dinner		

Day 2 : Wednesday, January 8, Amphimax Building

8:30-9:30	Room 415 Norwegian Success in Winter sports Ø. Sandbakk		
9:30-10:30	Room 412 National elite sport strategies leading to Olympic medal success 2030off in Switzerland: How to use the Lausanne 2020 YOG? (Chair: A. Weber)	Room 413 Biathlon (Chair: V. Gremiaux)	Room 414 Olympian Politics (Chair: P. Clastres)
9:30-9:50	National elite sport strategies leading to Olympic medal success 2030off in Switzerland: How to use the YOG	How important is shooting in youth biathlon training? A long term training analysis in youth elite biathlon	Olympics Games: The organisation, The history, The committee, The projects. Rome 1960-Barcelona 1992: From a dream to the Olympic model. V. DellaSalla
9:50-10:10	A. Weber Project Elite Sports Switzerland 2019: The value of sports competitions	R. Fudel Effects of altitude on elite biathlon performance	Athletes as Ambassadors of Diplomacy and Olympism: Realization of the Olympic Philosophy in PyeongChang 2018
	H. Kempf Round table discussion: How to use the Lausanne 2020 YOG to align the Swiss elite sport systems for 2030off?	G. Millet Effect of age and gender on biathlon's skiing and shooting performance	Y. Har Lev Israel's potential of using the Winter Olympic Games and of the Youth Olympic Games for nation branding and public diplomacy
10:10-10:30	H. Kempf, D. Pürro, A. Bürgi	F. Brocherie	Y. Dubinsky
10:30-10:45	Coffee break		
10:45-11:45	Room 412 National elite sport strategies leading to Olympic medal success 2030off in Switzerland: How to use the Lausanne 2020 YOG? (Chair: A. Weber)	Room 413 Monitoring (Chair: N. Place)	Room 414 Events, cities and urbanism (Chair: M. Lang)
10:45-11:05	National elite sport strategies leading to Olympic medal success 2030off in Switzerland: Introduction to the 2nd part's international perspective	Effectiveness of endurance training, guided by oxidative stress analysis	The legacy of mega events: urban transformations and social citizenship in Rio de Janeiro
	A. Weber Sport Policy factors Leading to International Sporting Success (SPUSS) – Exploration from winter sports	A. Parolini Relationship between heart rate variability and cortisol and their association to training load in young athletes	F. Bignami The long-term implications of mega-events for the provision of accessible public spaces
11:05-11:25	V. De Bosscher	C. Mishica	A. Smith, D. McGillivray
11:45-12:45	Room 415 Martin Fourcade's physiological adaptations – 10 years of training and monitoring Schmitt L.		
12:45-13:30	Lunch break		
13:30-14:30	Room 412 Talent & Success (Chair: A. Marcellini)	Room 413 Ski Jumping / Combined / Bobsleigh (Chair: G. Millet)	Room 414 Events, cities and urbanism (Chair: M. Müller)
13:30-13:50	Detection of young talents in alpine skiing: visualization and prediction	The prevalence of exercise-hypogonadal male condition and its influence on body composition and other blood biomarkers in elite male Nordic combined athletes.	The urban future of the Winter Olympics
	Q. De Larochelambert Young elite athletes' risk awareness of the future professional sporting career.	S. Tabata Observational study of snowboard and freestyle ski jumping parameters and their relationship to landing balance.	JL. Chappelet Geoporn or the power of flows
13:50-14:10	N. Silaev The perception of anti-doping education among international youth athletes	S. Balet Bobsleigh and Skeleton. Sports with no chance to develop?	C. Gaffney Re-thinking mega-events through a more integrated approach to divergent temporalities
14:10-14:30	K. Gatterer	D. Mankowski	L. Andres
14:30-15:30	Room 413 Hypoxic training (Chair: R. Faiss)		
14:30-14:50	Analysis on the difference of aerobic capacity between male speed skaters under acute hypoxia exposure and normoxic environment		
	S. Izu The fatigue-induced alteration in postural control is larger in hypobaric than in normobaric hypoxia		
14:50-15:10	F. Degache Effect of Hilo on cardiopulmonary function of female short track speed skaters		
15:10-15:30	M. Gold-J. Gold What makes mega-events sustainable? Comparing Olympics, World Cups and Expos since 1960 M. Müller		
	Y. Ming Mega-events for development? Seeing mega-events from the south		
15:30-15:45	G. Silvestre		
15:45-16:00	Coffee break		
16:00-17:15	Room 410 Roundtable with the IOC "How to support young athletes"		
17:15-18:00	Cloture – Drink – prize ceremony		

“冬季大会こそ競技種目のイノベーションが必要！”

“SDG s をより意識したメガイベントの在り方”

“若年層アスリートの支え方-IOC Roundtable” 等を課題に議論

(2) Winter Youth Olympic Games 2020

<大会の特徴>

- Olympic CapitalローザンヌでのIOC主催競技大会の開催
(スイスは国民投票で冬季オリンピック競技大会立候補は承認されていない。)
- 新しい冬季競技・種目へのチャレンジ
Ski Mountaineering/ICE Hockey 3X3 NOC混成チーム
Snow Volleyball=FIVBによるデモンストレーション
- 観戦チケットはスマホ対応E-TKT。
- 選手村はホテル利用
- 競技会場は広域開催であるが、選手関係者・観戦客の移動はすべて公共輸送機関を使用。地理不案内でも競技アイコンから探索できる専用アプリを開発。⇒ワールドマスターズゲームズ2021組織委員会に参考のために情報共有。



Guide Me Yodli 4+
Transports publics de la région lausannoise SA

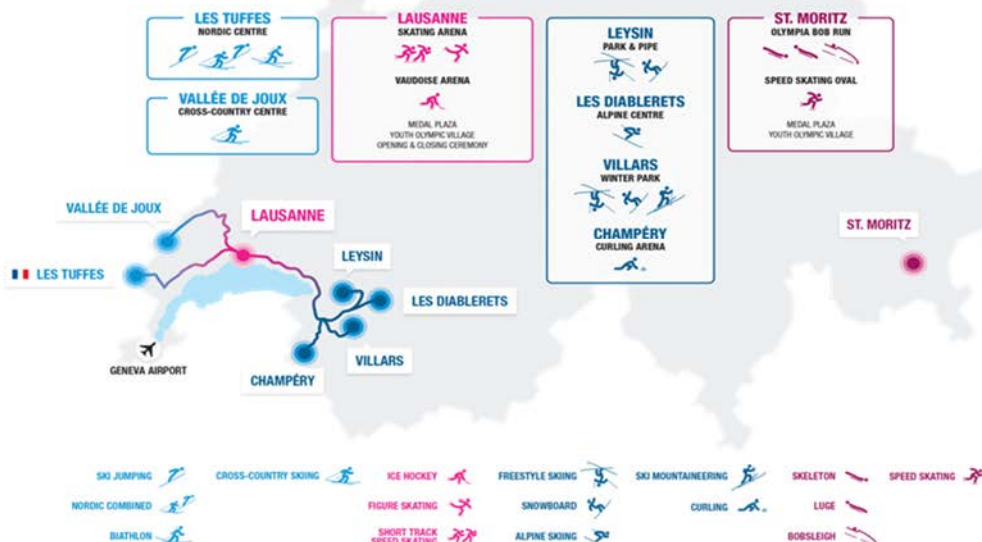
交通アプリ⇒



観戦E-TKT⇒



WINTER YOUTH OLYMPIC GAMES LAUSANNE 2020



8

第8回スポーツツーリズム・コンベンション in 金沢



○日 時: 2020年1月16日(木)

※ファミトリップ実施 1月17日(金)

※前日1月15日(水)は、スポーツ庁・文化庁・観光庁主催

「第4回スポーツ文化ツーリズムシンポジウム」を同会場で開催

○場 所: 金沢市文化ホール (石川県金沢市高岡町15番1号)

○主 催: 金沢市／一般社団法人日本スポーツツーリズム推進機構

○後 援: 観光庁／スポーツ庁

○参加者: 369名(会員、一般すべて含む)・ファミトリップ参加者17名

9:50- 基調講演「スポーツ文化ツーリズムによる新たな可能性」



株式会社JTB総合研究所 コンサルティング事業部 交流戦略部部長 主席研究員
山下 真輝 (JSTAセミナー委員)

JTBグループが全社で推進する観光を基盤とした地域活性化事業として立ち上げた「地域交流プロジェクト」をJTBグループ本社で推進するべく、全社戦略の策定や人材育成に取り組み、観光庁、経済産業省、文科省等の中央官庁における観光立国に関する様々な政策にも関わっている。また全国各地から講演会やパネルディスカッションの出演依頼も多数あり、全国各地の観光地づくりや6次産業化に関するセミナーやシンポジウムにおける講演活動や観光人材育成講座の講師や一般社団法人日本スポーツツーリズム推進機構における観光地づくり委員会委員など観光分野の各種委員を多数務めている。内閣官房地域活性化部として全国各地の観光振興のアドバイスを行っている。2018年4月より現職。

10:35- パネルディスカッション「スポーツツーリズムの最前線」



スポーツ庁 参事官(地域振興担当) 増井 国光氏/パネリスト

1992年に早稲田大学政治経済学部政治学科を卒業し農林水産省に入省。建設省出向時代は都市政策に係る環境と共生する都市整備を担当し、厚生省・環境省出向時代は廃棄物リサイクル行政(家電リサイクル法・食品リサイクル法の制定)に携わるなど、他の分野でも幅広い行政経験を積む。その後、農林水産省大田官房の企画官を経て、ジェトロ・パリセンターに出向。2007年に農林水産省で農林漁業バイオ燃料法の制定に携わる。2009年同省外食産業室長、2012年経済開発協力機構(OECD)日本政府代表部参事官、2015年農林水産省都市農林室長、2016年経済産業省通商政策局アジア大洋州課通商企画課長を経て2018年7月より現職。



株式会社JTB総合研究所 コンサルティング事業部 交流戦略部部長 主席研究員
山下 真輝/パネリスト



金沢文化スポーツコミッション 代表 | 元HGANAグループリージョナル 総支配人
平 八郎/パネリスト

1959年東京生まれ。1983年原研義塾大学文学部卒。在学中は体育会サッカー部に所属。日本国土開発を経て、全日本エンタテインメント株式会社入社(現HGANAグループジャパン)。北海道・岩手・広島・福岡・仙台、金沢のリージョナル総支配人を歴任し、2018年7月金沢文化スポーツコミッション代表に就任。仕事とプライベートの両面で幅広い経験と人脈をもとに、金沢が持つ歴史と文化にスポーツを融合させた「まちづくり」を目指している。



一般社団法人日本スポーツツーリズム推進機構 会長
早稲田大学スポーツ科学部教授 教授
原田 宗彦/コーディネーター
1964年大阪生まれ。ペンシルバニア州立大学法学部・体育・レクリエーション学部博士課程修了(PhD)。大阪体育大学大学院教授などを経て、2005年から早稲田大学スポーツ科学部教授就任。日本スポーツマネジメント学会会長、日本バレーボール協会理事を務める。現在は、スポーツ庁「スポーツツーリズム振興拡大のための官民連携推進会議」座長を務める。

13:30- 分科会 1

2会場同時開催となります。参加会場お間違いの無いようご注意ください。

2階・大集会室

3階・大会議室

A 「文化×スポーツ=集客×交流」による地方創生

人口減少社会にあって、全国の地域シンクタンクが先行事例を持ち寄り、新たなビジネスのヒントを探る。



一般財団法人日本経済研究所 専務理事(代表理事)
新産業創造業務統括 兼 地域未来研究センター・エグゼクティブフェロー
鍋山 徹氏

1959年生まれ。福岡県出身。1982年早稲田大学法学部卒業後、日本開発銀行(現日本政策投資銀行)入行。営業、審査・課金(エネルギー、化学、電機、観光サービス)などを経験し、2000年米国立スタンフォード大学国際政策研究所客員研究員。2009年日本政策投資銀行産業課長(2011年テックエコノミスト)。2013年から現職。2010年〜2014年テレビ東京ワールドビジネスサタライトのレギュラー・コメンテーター。九州経済連合会IoTビジネス研究会会長 他公職多数。



一般財団法人青森地域社会研究所 調査研究部長
松田 英嗣氏

青森県弘前市出身。青山学院大学経済学部経済学科卒業。1987年青森銀行入行。富田支店長、金融商品管理室長などを歴任。2016年(一財)青森地域社会研究所に出向し、現職。青森公立大学地域まちづくり学 非常勤講師。地方創生を中心テーマに抱えた各種調査レポートを機関誌に発表のほか、外部寄稿多数。



沖縄振興開発金融公庫 調査部 地域連携情報室長
長嶺 敬氏

1972年群馬県生まれ。1996年京都大学工学部卒。1997年沖縄振興開発金融公庫入庫、2003年日本政策投資銀行地域企画部出向。随時「地域振興調査」総研部企画課長等を経て2019年4月より現職。中小企業診断士。



一般財団法人日本経済研究所 常務理事
地域創造業務統括 兼 地域未来研究センター長 兼 調査局長
大西 達也氏

1966年総務省生まれ。早稲田大学法学部卒。日本開発銀行(現日本政策投資銀行)入行後、パリ高等商科大学トレーニー派遣、ロンドン駐在員事務所、九州支店、本店本部企画室、地域企画部を経て2013年より現職。東洋大学客員教授、専門誌「地域開発(日本地域開発センター)」編集長、経済産業省・中小企業庁等委員、全国の地方自治体、商工会議所等主催講演会や大学での講演・講義多数。

B 武道ツーリズム時代宣言

スポーツツーリズムの世界を変えるため、2年間叫び続けた武道ツーリズム。ど真中に立つ者、遠く先を行く者、彼らと武道ツーリズムの現在地を確認し、更なるムーブメントへ。



山梨学院大学 国際リベラルアーツ学部(iCLA) 教授
ウィリアム・リード氏

全日本柔道連合会指導員、全日本教育指導員副会長。順心会気道八段。アンバサダー特別顧問。山梨放送(てでてTV)コメンテーター。津波被災150周年記念ドキュメンタリー「道場のオビゲーター」代表者。「世界最高のプレゼンター」(角川書店)。相の代表者。また自ら手作りで世界最大の武者行列である徳川公祭りに参加するなど、国内外に日本文化の素晴らしさを発信している青い目のルネサンスサマライ。



Ageshio Japan株式会社 取締役
古田 桂一氏

WEBマーケティング歴12年。中国在住9年。東証一部WEB広告代理店OPTの中国事業責任者、上海電通デジタルのGroup Account Directorを歴任。中国勤務時代にJNTOをはじめ、日系企業の各種インバウンド企画に携わる。上海在住中に空手を習い始める。その空手の先生と共に沖縄へ移住して、17年9月に空手専門の旅行会社Ageshio Japan株式会社を設立し、現在に至る。



山形県村山市 商工観光課長
田中 昭広氏

山形県のほぼ中央に位置する人口約24,000人の小さな市「村山市」。7haに750棟、20,000坪の「奥沢公園」。「最上川三舞臺そば街道」、エネルギー・環境・食料・文化・観光・まちづくりを三大観光資源とする中で、村山市にしかない日本一「林崎温泉神社」を観光の新たな資源とし活性化につなげようと2年計から「居合道体験プログラム」を開発し、昨年より販売。普及啓発に奮闘中。



スポーツ庁 参事官(地域振興担当) 付 専門官
田口 雅紀氏/コーディネーター

1997年に北海道大学法学部法律学科を卒業し、北海道教育大学に採用。2005年、文部科学省に出向し、スポーツ・青少年局において、青少年健全育成、オシエアルレーシングセンター整備、オリンピック・パラリンピックに向けた競技力向上、学校給食施設整備計画等を担当。2015年、スポーツ・青少年局企画課総務係長として、スポーツ庁創設に携わり、初代スポーツ庁政策課総務係長・秘書係長等を歴任した後、2016年北海道教育大学に出向。同大学生課長、総務課長を経て、2019年4月より現職。

※プログラムや登壇者は、事情により急遽変更となる場合があります。

15:30- 分科会2

2会場同時開催となります。参加会場お間違いの無いようご注意ください。

2階・大集会室

3階・大会議室

C プロスポーツチームによる地域活性化

チームが地域にもたらす価値とは。地元3チームに日本トップリーグ連携機構事務局長を交え、ビジョンを語る。



一般社団法人日本トップリーグ連携機構 事務局長

田口 禎則氏

元サッカー日本代表、Jリーグとして浦和レッズ等で活躍。引退後いたま市議会議員、埼玉県議会議員を経て、2008年より日本女子サッカーリーグ専務理事として、2011年までJリーグの専務理事となった。2013年Jリーグ改革やJFA女子大会委員長として女子サッカーの発展に尽力。現在は日本トップリーグ連携機構で団体ボールゲーム9競技12リーグ（加盟チームは330チーム）で積極的な活動も展開中（2015年～）



サッカー・J2リーグ ツエーゲン金沢 代表取締役GM

西川 圭史氏

76年 兵庫県神戸市生まれ。2001年 東京大学法学部卒。同年日本政策投資銀行入行 産業技術部、財務部。04～05年財務部 大田官房監査官に転出。06～07年日本政策投資銀行 北陸支店（金沢）勤務。08年（株）プレミアム・エデュケーションを設立。09年（一社）NS人材創造機構を設立。11年（株）ツエーゲン ゼネラルマネージャー代理。12年（株）ツエーゲン 取締役ゼネラルマネージャー。14年（株）ツエーゲン 代表取締役ゼネラルマネージャー ※17年（株）ツエーゲンから（株）石川ツエーゲンに法人名変更



バスケットボール・B3リーグ 金沢武士団 代表取締役社長

中野 秀光氏

1958年生まれ、新潟県出身。新潟市立新潟白山高等学校体育科卒業。1980年～2002年まで小千谷高校バスケットボール部でコーチを務める。80年有限会社寺井屋に入社、取締役就任。02年株式会社新潟スポーツプロモーション（新潟アルビ）専務取締役就任。04年同社代表取締役就任。同年11月日本プロバスケットボール（bjリーグ）理事就任。07年（株）日本プロバスケットボールリーグ代表取締役社長就任。16年スポーツ庁スポーツ振興推進委員会委員就任。



バレーボール・V1リーグ女子 PFUブルーキャッツ

スポーツ振興部長

藤田 徹氏

1961年金沢市生まれ。79年金沢北高等学校卒。83年早稲田大学法学部卒。同年（株）モルテン入社（当時：モルテンゴム工業（株））。85年（株）PFU入社（当時：ユーザック電子工業（株））。2004年 取締役。06年企画部長。12年人材開発部長。同年PFUブルーキャッツ部長に就任（兼）18年スポーツ振興部長。



金沢星稜大学 人間科学部 スポーツ学科 准教授

西村 貴之氏/コーディネーター

専門は「地域スポーツマネジメント」、「スポーツまちづくり」。総合型地域スポーツクラブNPO法人クラブパレット（石川県かほく市）クラブマネージャー、金沢大学大学院教育開発・支援センター専任助教、金沢星稜大学地域連携センターコーディネーターなどを経て現職。「スポーツで人と地域を幸せにする」担い手の育成をめざし、自らも奮闘中。

D アウトドアスポーツツーリズムの現在と未来

国土が起伏に富んだ日本ならではの、各地の自然を生かした新しいツーリズムの潮流と展望。



株式会社モンベル 常務取締役 広報本部長

竹山 史朗氏

1988年モンベル入社。営業部、生産部などを経て2000年よりウェブサイトの立ち上げに携わり、現在は広報部の責任者として、マーケティング全般、モンベルクラブ会員組織の運営、イベント運営、CSR、農産物とのコラボレーション、アウトドア・山岳雑誌の出版、地方自治体との提携事業などを担当。趣味は山歩きだが海も川も里も山の見知らぬ土地を歩き回るのが大好きで、仕事にプライベートに日本全国を飛び回っている。



一般社団法人ルーツ・スポーツ・ジャパン 代表理事

中島 祥元氏

1976年富山県高岡市生まれ。早稲田大学人間科学部スポーツ科学科を卒業後、スポーツ関連ベンチャーの立ち上げに参加、のちに取締役を務める。UCI（国際自転車競技連盟）主催の国際大会のオーガナイザーに参画。2009年株式会社ルーツ・スポーツ・ジャパンを設立。2012年一般社団法人ルーツ（現一般社団法人ルーツ・スポーツ・ジャパン）を設立し同法人の代表。これまでにプロデュースとして、自転車、ランニングを中心とした大小様々なスポーツイベントの立ち上げから企画運営、スポーツによるまちおこし・地域活性化事業、公共スポーツ施設の事業開発等に従事。スポーツツーリズムやサイクルツーリズムの分野では官公庁の行政委員も多数務める。



石川県宝達志水町 副町長（前・スポーツ庁参事官付専門官）

高下 栄次氏

石川県宝達志水町出身。1992年農林水産省入省。これまでにコメ、農産（JA）、6次産業化等を担当。途中、内閣安全保障・危機管理室に出向。2000年農林省の対応に当たる。2016年スポーツ庁発足と同時にスポーツ庁に出向。スポーツによる地域振興を担当。マンが好むで農水省で14年、スポーツ庁で12年のマンがプロデュース（うち24年を市販）。2019年4年、36年ぶりに故郷に帰り、副町長に就任、現在に至る。



株式会社スポーツニッポン新聞社 スタートアップビジネス推進室 部長

吉井 康雄氏/コーディネーター

1964年8月29日生まれ。東京都出身の55歳。拓大卒。96年にスポーツニッポン新聞社に入社し、東京本社広告部に配属。その後、大阪本社営業部、経営企画室営業推進チーム、新規営業室を経て、現在はスタートアップビジネス（SAB）推進室で自治体向け事業イベントなどを手掛け、全国で各地マラソン協議会の活動を手掛ける。また、JSTAセミナー委員、スポーツ庁のスポーツツーリズム推進大会のための官民連携協議会、武蔵ツーリズム協議会のサグーパーも務める。

会期中常時開催 「文化×スポーツ×観光」ブース展示

1階・ギャラリー／カフェコーナー

スポーツ庁・文化庁・観光庁をはじめ、文化、スポーツ、観光に関わる展示やブース出展を行っています。カフェコーナーをご用意しておりますので、ネットワーキングランチやご休憩の際には是非お立ち寄りください。

一般社団法人ルーツ・スポーツ・ジャパン

全国サイクルツーリズムプロジェクト「ツール・ド・ニッポン」の紹介。大型イベント事業、ロゲイニング事業、サイクリングアプリ事業、サイクリングガイド養成事業等。

株式会社ブリックス AI通訳・翻訳を活用した多言語ソリューション及び、AIによる機械通訳・翻訳における技術革新の現状と最新の言語変換技術をご紹介

日本経済研究所 金沢文化スポーツコミッションの活動が地域にもたらす効果の測定

スポーツ庁 武庫ツーリズム、アウトドアスポーツツーリズム

文化庁 日本博 | Japan Culture Expo

観光庁 New ideas start here.

公益財団法人ワールドマスターズゲームズ2021関西組織委員会 30歳以上なら誰でも参加できる世界最大級のスポーツ祭

金沢マラソン組織委員会 金沢をまるごと「走る！」

国立工芸館（東京国立近代美術館工芸館） 2020年夏 東京から金沢へ

スポーツ文化ツーリズムアワード

金沢文化スポーツコミッション 「文化×スポーツ」のコラボレーションで街の新たな魅力づくり

フランス×金沢市 市民が主役のホストタウンを目指して

食文化×スポーツお弁当写真コンテスト する人、見る人、食べる人を応援するキャンペーン

日本全国に拡大中！地域スポーツコミッション

1月17日 ファムトリップ（要事前申込）

9:00 金沢駅集合

～谷口吉郎・吉生記念金沢建館：2019.7月開館。建築とまちづくりを寄る博物館

～金箔貼り体験：金箔市は金箔の生産量全国シェア99%。市内箔工芸店での実施を予定。

～金沢駅解散（12:00予定）

記録写真

受付 1月16日(木) 9:00～(会議棟1階 ホワイエ)



開会式 9:30～9:50 (メイン会場：2階大集会室)



主催者挨拶
金沢市長 山野 之義



主催者挨拶
(一社)日本スポーツツーリズム推進機構
会長 原田 宗彦



来賓挨拶
スポーツ庁 参事官(地域振興担当)
増井 国光 氏



司会進行
山岸 直子

基調講演

9:50～10:35（メイン会場：2階大集会室）

- ・株式会社JTB総合研究所 コンサルティング事業部 交流戦略部 部長
山下 真輝（JSTAセミナー委員）



パネルディスカッション「スポーツツーリズムの最前線」

10:35～12:05（メイン会場：2階大集会室）

＜パネリスト＞

- ・株式会社JTB総合研究所 主席研究員 山下 真輝（JSTAセミナー委員）
- ・スポーツ庁 参事官（地域振興担当） 増井 国光 氏
- ・金沢文化スポーツコミッション 代表 平 八郎

＜コーディネーター＞

原田宗彦（JSTA会長）



記録写真

ネットワーキングランチ・ブース展示／カフェコーナー

12:05～（会議棟1階 ホワイエ・ギャラリー）



【分科会1-A】「文化×スポーツ＝集客・交流による地方創生」

13:30～15:00（メイン会場：2階大集会室）

- ・一般財団法人日本経済研究所専務理事（代表理事）
新産業創造業務統括兼地域未来研究センター・エグゼクティブフェロー
鍋山 徹 氏
- ・一般財団法人青森地域社会研究所 調査研究部長 松田 英嗣 氏
- ・沖縄振興開発金融公庫 調査部地域連携情報室長 長嶺 敬 氏

<コーディネーター>

大西達也氏（一般財団法人日本経済研究所 常務理事地域創造業務統括
兼地域未来研究センター長兼調査局長）



記録写真

【分科会1-B】「武道ツーリズム時代宣言」

13:30～15:00（第二会場：3階大会議室）

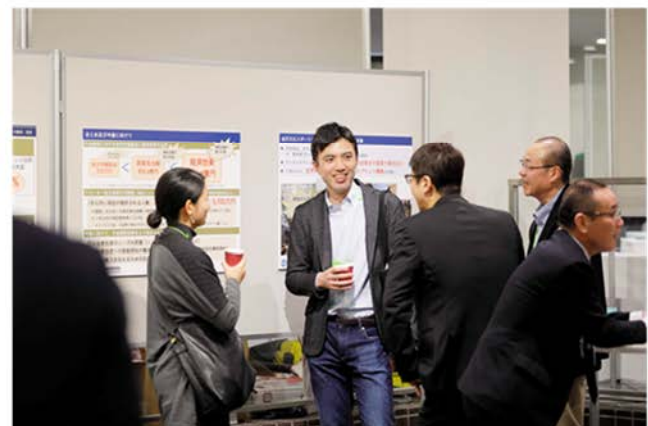
- ・山梨学院大学 教授 ウィリアム・リード 氏
- ・Ageshio Japan株式会社 取締役 古田 桂一 氏
- ・山形県村山市 商工観光課 課長 田中 昭広 氏

＜コーディネーター＞

田口 雅紀 氏（スポーツ庁参事官（地域振興担当）付 専門官）



コーヒーブレイク 15:00～15:30



記録写真

【分科会2-C】「プロスポーツチームによる地域活性化」

15:30～17:00（メイン会場：2階大集会室）

- ・一般社団法人日本トップリーグ連携機構 事務局長 田口 禎則 氏
- ・J2ツエーゲン金沢 代表取締役GM 西川 圭史 氏
- ・B3金沢武士団 代表取締役社長 中野 秀光 氏
- ・V1女子・PFUブルーキャッツ 部長 藤田 徹 氏

＜コーディネーター＞

西村 貴之氏（金沢星稷大学 人間科学部 准教授）



【分科会2-D】「アウトドアスポーツツーリズムの現在と未来」

15:30～17:00（第二会場：3階大会議室）

- ・株式会社モンベル 常務取締役 竹山 史朗 氏
- ・一般社団法人ルーツ・スポーツ・ジャパン 代表理事 中島 祥元 氏
- ・石川県羽咋郡宝達志水町 副町長 高下 栄次 氏

＜コーディネーター＞

吉井 康雄（JSTAセミナー委員／株式会社スポーツニッポン新聞社
スタートアップビジネス（SUB）推進室 部次長）



記録写真

ファムトリップ 1月17日 9:00～12:00

金沢駅集合（バス移動）
～谷口吉郎・吉生記念金沢建築館
～金箔貼り体験
～金沢駅解散



9 | ヘルスツーリズム認証



JSTAは2018年より、「ヘルスツーリズム認証」を交付するヘルスツーリズム認証委員会を運営するメンバーとして活動しています。

・スポーツ/アクティビティはヘルスツーリズム・プログラムの重要な構成要素です。

＜ヘルスツーリズム認証委員会共同運営組織＞

特定非営利活動法人日本ヘルスツーリズム振興機構

一般財団法人日本規格協会

一般社団法人日本スポーツツーリズム推進機構



ヘルスツーリズム認証とは

- ・旅の楽しみに健康へのケアをプラス。ヘルスツーリズム認証は、[旅と健康]という新しい視点から観光商品を客観的に評価する第三者認証サービスです。
- ・ヘルスケアサービスの品質を「見える化」します。
- ・品質保証が、消費者にもプログラム提供者にもメリットをもたらします。
- ・認証マークで旅の楽しみに付加価値をプラスします。



ヘルスツーリズム認証 プログラム一覧(2020年3月31日現在)

都道府県	市町村	プログラム名	事業所名	認証期
青森	五所川原市	DAZAI 健康トレイル青森ひばの神木コース	一般社団法人かなぎ元気村	1
秋田	三種町	秋田犬と散歩(健康ウォーキング)	一般社団法人ヘルスデザイン秋田	4
山形	上山市	カラダにやさしいクアオルト膳とプチ湯治	有限会社有馬館	1
	上山市	クアオルト健康ウォーキング(空色・暮色ウォーキング)	一般社団法人上山市観光物産協会	1
	上山市	クアオルトバランス膳・早朝ウォーキング	有限会社彩花亭時代屋	1
	上山市	クアオルトこんにやく会席箱膳	株式会社丹野こんにやく	1
	上山市	クアオルトかみのやま会席	株式会社月岡ホテル	2
福島	朝倉町	ヘルスコンシャスプラン	株式会社ルネサンス棚倉	1
	北塩原村	多様な水辺・命の森裏磐梯へようこそ	特定非営利活動法人裏磐梯エコツーリズム協会	3
群馬	みなかみ町	みなかみヘルスツーリズム 一の倉沢ハイキング	一般社団法人みなかみ町体験旅行	3
	みなかみ町	みなかみヘルスツーリズム スノーシューハイキング	一般社団法人みなかみ町体験旅行	3
	みなかみ町	みなかみヘルスツーリズム ノルディックウォーク たくみの里コース	一般社団法人みなかみ町体験旅行	3
	みなかみ町	みなかみヘルスツーリズム ノルディックウォーク 湯宿温泉コース	一般社団法人みなかみ町体験旅行	3
	みなかみ町	みなかみヘルスツーリズム ノルディックウォーク 谷川岳・一の倉沢コース	一般社団法人みなかみ町体験旅行	4
	みなかみ町	みなかみヘルスツーリズム リバーラフティング	一般社団法人みなかみ町体験旅行	3
千葉	銚子市	ちょうしがよくなるヘルスツーリズム/銚子潮風ウォーキング	特定非営利活動法人ちょうしがよくなるくらぶ	2
	南房総市	癒しの森のセラピーウォーキング	一般社団法人南房総健康ラボ	1
東京	足立区	癒しのヘルスツーリズムプログラム「くらふと」	coco de class 株式会社	1
	板橋区	リハビリ旅行	リハビリ推進センター株式会社	1
新潟	妙高市	妙高型健康保養地プログラム	一般社団法人妙高ツーリズムマネジメント	2
富山	富山市	とやま健泊@立山山麓	株式会社アピススポーツクラブ	1
長野	上田市	バディケアと300年目に復興した信州巡礼 de 楽しく元気に健康歩行	一般社団法人日本バディケア協会	1
	木曽町	木曽開田高原健康ウォーキング	一般社団法人木曽おんたけ健康ラボ	1
	飯山市	なべくら高原 森林セラピー散策	一般社団法人信州いいやま観光局	3
	茅野市	健康いきいき診断プログラム体力年齢アップ健康運動コース	株式会社池の平ホテル&リゾート	3
三重	明和町	ココロとカラダを整える「大淀海岸タラソセラピーウォーク」	一般社団法人明和観光商會	5
大阪	高槻市	サンスター心身健康道場一日体験	サンスター株式会社	2
兵庫	神戸市	ウェルネスウォーキング	株式会社らサイト 神戸みなと温泉連	2
	神戸市	乳がんリハビリヨガ	株式会社らサイト 神戸みなと温泉連	2
	神戸市	体力測定・運動能力チャレンジプログラム	株式会社らサイト 神戸みなと温泉連	3
	神戸市	ランニングクリニック	株式会社らサイト 神戸みなと温泉連	3
	多可町	“不良長寿の道”多可の森健康ウォーキング	一般社団法人多可の森健康協会	2
和歌山	田辺市	熊野古道健康ウォーキング	特定非営利活動法人熊野で健康ラボ	1
島根	大田市	OHDA madeの旅 琴ヶ浜ヘルスツーリズム	一般社団法人島根おたけ健康ビューロー	1
	大田市	OHDA madeの旅 三瓶山ヘルスツーリズム	一般社団法人島根おたけ健康ビューロー	1
岡山	玉野市	たまの海走浴～サイクリング×ボディメイク×瀬戸内食×美人の湯	一般社団法人玉野コミュニティ・デザイン	1
熊本	阿蘇村	大自然阿蘇健康の森 基本プラン3泊4日	株式会社阿蘇ファームランド	2
大分	竹田市	こころ・からだよみがえる健康ながゆ旅	特定非営利活動法人竹田市観光ツーリズム協会	1
鹿児島	西之表市	種子島ナチュラルデトックス満喫プラン	株式会社SOMES	3
19	26	39	30	

※認証期1～3:2018年度、認証期4～5:2019年度

初回認証から3年間有効(更新後は2年間有効)。

認証取得後、1年ごとに認証体制が維持されていることを確認するためにサーベランス審査を行います。

また、認証の更新可否を判断するため初回認証取得から3年後に更新審査を行います。

10 | JSTA セミナー



2019年度 第1回 JSTA セミナー

「PPP(公民パートナーシップ)で人を動かす！これからのパークマネジメント」

日時：2019年6月21日（金）15:00～17:30

会場：共同通信会館5階会議室



講演 1

「PPPで人を動かす！PFI/PPPを活用した公共施設最前線」

講師 町田 誠 氏

公益財団法人東京都公園協会 専門アドバイザー

【経歴】

1982 年建設省入省。公園緑地関係を専門とし、本省勤務の他、東北、関東、近畿、中国地方の国営公園などの整備管理に携わる。2000 年国際園芸・造園博覧会ジャパンフローラ 2000、2005 年日本国際博覧会（愛知万博）、2012 年全国都市緑化フェア TOKYO GREEN2012 の主催組織などにおいて、会場整備、大型イベントのプロモート等を担当。さいたま市技監、東京都建設局公園緑地部長、国土交通省都市局公園緑地・景観課緑地環境室長などを経て、2016 年 6 月から公園緑地・景観課長。2018 年 7 月退職。2018 年 11 月東京都公園協会入社。2018 年 12 月 SOWING WORKS 代表。

【都市公園の現状】

- ・ 2018 年 3 月 31 日現在、都市公園のストックは、12.6 万 ha (=10.8 万か所)。沖縄本島と同じ面積を公共のお金で運営していかなければならない。（毎年約 1,000ha ずつ増えて行っている。）
- ・ 都市公園が所有するスポーツ施設数の例：野球場 3,269 カ所、テニスコート 19,575 面、体育館 984 ケ所 etc…
- ・ 公園はスポーツ施設との親和性が非常に高いため、イベントを運営するのに適しているが、最大限活用できていないのが現状。
- ・ 都市公園は増え続けているが、維持管理単価は平成 7 年をピークに年々減少傾向。
- ・ 本来都市公園法はハードルの高いものではないはずだが、公園管理者の裁量で立てられる禁止看板などの規制により、気軽に公園を利用できなくなっている。
- ・ 現状を変えるためには「公園」を使い倒すことが重要。→イタリアのカンポ広場や、スペインのマヨール広場のように、都市の中に美しい空間をつくることで、そこで暮らす人々の街に対する愛着心（シティプライド）が増し、都市や地域のイメージが良くなることで活性化にもつながっていく。

【指定管理者制度とは】

- ・平成 15 年より導入され、公園管理者が行う事務（占用許可、監督処分等）を除き、条例で定められている管理行為（利用料金の収受、清掃、巡回等）を民間事業者が行うことのできる制度。
- ・指定管理者の現状としては、平成 20 年から平成 28 年にかけて、財団法人：69.3%→52.5%と減少傾向だが、一方、民間事業者：22.7%→35.6%と増加傾向。
- ・都市公園数 10.8 万か所のうち、大規模な公園・運動公園・総合公園などは 4,000 か所程度。運動施設がある公園は 4,8000 か所程度（その内、公園管理者約 3,000 か所、その他約 1,7000 か所。）

【これからの公園の方向性】

- ・ストック効果を高める：今あるものをどう活かすか。
- ・民間との連携促進：公共視点だけで運営するのではなく、民間のビジネスチャンスの拡大と公園の魅力向上を両立させていく。
- ・都市公園を柔軟に使い倒す：画一的な公園の整備（とりあえず砂場、滑り台など）や管理（禁止看板による規制など）はやめ、各公園の個性を引き出す工夫をすることが大切。

【Park-PFI（公募設置管理制度）】

- ・Park-PFI とは、都市公園において飲食店、売店などの公園施設の設置、又は、管理を行う民間事業者を公募により選定する手続き。
- ・事業者が設置する施設から得られる収益を公園整備に還元することを条件に、事業者には都市公園法の特例措置が適用される。
- ・規制緩和措置として、①収益が見込まれる施設の設置を最長 20 年保証し、民間の参入を促進。②建蔽率の増加（ある一定の条件を満たす場合）。③自転車駐車場や広告看板などを占用物件（利便増進施設）として設置できる。
- ・特区内の都市では、都市公園における占用許可特例として、保育所等が設置可能。
- ・既に 21 自治体 24 公園では活用中。更に 53 自治体 59 公園で活用予定。200 自治体で活用検討段階。

【これからの公園のあり方】

- ・都市（エリア）のための公園を目指す。（地域活性のためのツールにする。）
- ・日本の公園はそのほとんどが外周植栽（木や草花で公園を囲む）という構造になっているが、これでは公園が街から孤立していくため、これからはシームレスな街づくりのためのツールにしていく必要がある。（公園の中にレストランがあつたり、駅や市役所など公共の場までの道のりに公園があつたりと、街と公園が一体となっている街づくりを目指す必要がある。）
- ・パークマネジメントからエリアマネジメントへと視野を広くもつことで、公園だけではなく、地域全体のイメージアップやブランド力の向上を目指していく。

【スポーツ庁の世論調査について】

・「平成 29 年度スポーツの実施状況に関する世論調査」(n=14,818 スポーツ庁 H30. 4. 25) によると、「運動やスポーツを実施した理由（複数回答可）」のうち、健康のため（75.2%）と回答した人がもっとも多かった。次いで体力増進・維持のため（50.1%）、運動不足を感じるから（44.1%）となった。

・「運動やスポーツをする頻度が減った・これ以上増やせない理由（複数回答可）」としては、仕事や家事が忙しいから（39.9%）、面倒くさいから（25.3%）、年をとったから（19.9%）との結果になった。尚、場所や施設がないからと回答した人は、全体の 8.3%。運動できる環境が充実しているにも関わらず、利用されていない現状であることがわかる。

▶本来スポーツとは楽しむべきものであるが、現代では様々な理由付けがされている。いかにして、「スポーツ＝楽しむもの」に転換できるかが今後の課題となってくる。

▶「平成 26 年度 若者のスポーツ参加機会拡充を通じた地域コミュニティ活性化促進事業（文部科学省委託）」では、日常の様々なコンテンツと関連付けて、若者に向けてスポーツを推進していこうとしている。（例：恋活×スポーツ、通勤×スポーツなど）

【地域コミュニティ施設としての公園】

・人が集まる空間とは…①誰にでも開かれている場所であること。②規則による様々な制限がないこと。③能動的な活動が可能なこと。④無用な刺激が少なく健康的（清楚）な場所であること。が挙げられ、公園はその条件を満たしている空間にある。

・『場所としての図書館・空間としての図書館』（学文社 2015 年 4 月 著：根本彰）によると、「目的がなくとも、そこにいることを許す公共施設というのは、図書館以外に公園くらいしかない。」と記されており、図書館＝社会教育施設（公園＝規制の多い公共施設）ではなく、地域コミュニティ施設（地域を良くするために必要な施設）であるという視点に立つことが重要であることがわかる。

▶地域のためのスポーツツーリズム…スポーツ施設やスポーツツーリズムスポットをつくるだけでなく、その地域が豊かになるにはどうすれば良いのかを併せて考えていく必要がある。

【公園のこれから】

・公園 1.0：公園本体そのもの志向、公園 2.0：ユーザー満足度志向、公園 3.0：よりよい都市・エリア志向、公園 4.0：すべての人の自己実現志向→スポーツも 1.0 から 4.0 へ



講演 2

「公園で“思い”をカタチに」

講師 竹田 和真 氏

一般財団法人大阪府公園協会

大泉緑地管理事務所長

【経歴】

1996 年建設省入省。国営公園等の整備・管理のほか、まちづくり、地域づくりに携わる。内閣府では国民生活における安全・安心の確保に関する消費者行政を担当。2008 年大阪府公園協会入社。指定管理者として服部緑地等の大規模公園の管理・利活用に携わる。立上げ当初から関わる公園を活用した健康づくりプロジェクト「大阪発、公園からの健康づくり」は健康寿命をのばそうアワードで厚生労働大臣優秀賞受賞。現在、大泉緑地管理事務所長、World Urban Parks ジャパン理事等として社会や地域の役に立つ公園づくりに邁進中。

【大泉緑地について】

・大阪府営（大阪市から 15km ほど南下した場所）で、年間利用者数：約 250 万人（推計）、駐車台数：最大 2200 台（臨時駐車場含む）、開設面積：101.5ha、開設年：1972 年の公園。

【指定管理者について】

・行政（公園設置者）とのつながりが強いと思われがちだが、指定管理者は、議会での議決を経て指定されるため、事実上、有権者である市民・事業者の方々に選ばれている。

・指定管理者は、市民・事業者の方々の思いを実現できるように、共に考え、お手伝いをする存在。公園は思いを実現する場所であり、試してみる場所である。

【実施したスポーツイベントについて】

（1）BMX 国際大会…BMX の専用コース（サイクルどろんこ広場）にて開催。

指定管理者の取組：

- ①ショックアブソーバーの新設→スタート板のリバウンド防止の為
- ②協力滑り止め剤の塗布→スリップ転倒防止の為
- ③アスファルト舗装の全面やり替え→転倒防止の為
- ④選手入場口として整備（階段とスロープ）
- ⑤バーム裏側の法面（法肩）の補強
- ⑥表彰台付近の倒木の抜根、除去
- ⑦臨時駐車場の早期開設
- ⑧中国やインドネシアなど海外の競技サイトなどでも告知された

▶事前準備や告知により大会は成功し、次回も大泉緑地での開催が決定。（2019 年 10 月 20 日開催。）

▶前大会は競技環境の整備に取り組んだが、次大会に向けては観戦環境の整備に取り組む予定。

(2) キッズ★バイク競技会…自然体験が不足している子どもたちに、外遊びの楽しさやコミュニケーションの大切さを伝えたいとの青年会議所の思いから共同開催。

指定管理者の取組：

- ①キッチンカーなどの飲食ブースを手配
- ②飲食販売等を伴うイベント実施に係る大阪府との調整
- ▶ギャラリー含め約 800 名の方たちが来場。

(3) BMX コースリレーマラソン…神戸の方でマラソンイベントを運営されている方が、“走る楽しみ”を味わっていただきたいとの提案から開催。

指定管理者の取組：

- ①目的外利用となるため、BMX と関連付けるなど大阪府の理解を得るための理屈の整理と調整
- ②親子リレーでは、マラソン後にパン食い競技を取り入れるなど、開催場所のみならず競技内容にもユニークランニングならではの工夫を行う
- ▶大好評につき第 2 回開催も決定。

(4) 企業対抗リレーマラソン

開催背景：

【1】地域包括ケアシステム（※1）の推進により、地域一体となって高齢者の方たちの生活支援や介護を予防する取組が急務となっているが、そうした取組の中で、どうにかして公園を健康づくりや健康経営に活用できないか（利用してもらえないか）と考えていたことがきっかけ。

※1 厚生労働省は、2025 年（平成 37 年）を目途に、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制（地域包括ケアシステム）の構築を推進していくことを目指している。

【2】海外の取組…“PARK PRESCRIPTION” —公園処方箋—：小児肥満等で来院する子どもたちに対して、近くの公園で遊ぶ（身体を動かす）ことを“処方”するという全米で広がりつつある取組。

指定管理者の取組：

- ①フェス感覚で楽しめるイベントにするために、鍼灸マッサージ体験や新鮮野菜販売ブースの出展協力を得た
- ②堺市商工会議所、青年会議所などを通じて広報
- ③大泉緑地のバーベキュー施設（Good BBQ 大泉緑地とのタイアップ（入賞景品など）
- ▶企業（団体）交流の場を設けることで、地域のつながりが深まる。
- ▶「健康のために」という思いからエントリーしたが、たすきをつなぎ、仲間を応援することの素晴らしさや、運動本来の楽しさを改めて実感できたという参加者の声も。
- ▶次開催も検討中。

【その他の公園活用内容】

・平成 30 年度の利用状況（行為許可を得て実施されたイベント等：全 507 件）…野球（少年野球）271 件、グランドゴルフ 37 件、マラソン等 25 件、BMX24 件、運動会等 18 件、ソフトボール 8 件、ウォーキング等 2 件、その他 122 件（遠足、撮影会など）

・カキツバタが見頃を迎えたかきつばた園で、『伊勢物語』の中で詠まれた『杜若』を題材にした能を、能楽師・辰巳満次郎氏に実演して頂くイベントを行った。それと同時に、羽衣国際大学の先生等を招き、『伊勢物語』の内容、能面についての講習会を行うなど、公園で、日本の歴史や伝統文化に触れられる機会をつくった。

・ぱくベジマルシェ…大泉緑地のバーベキューエリアでマルシェイベントを実施。大阪の農家さんが作った新鮮な野菜を買うだけではなく、その場で BBQ をして食べて美味しさを実感してもらうという大泉緑地ならではの体験型マルシェとして実施した。

2019年度 第2回 JSTA セミナー

「スポーツ×エンタメ スタジアム・アリーナ活用」

日時：2019年7月19日（金）15:00～17:30

会場：共同通信会館5階会議室



講演 1

「音楽ライブコンサートの現状」

講師 田山 順一 氏

一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 理事/
ライブ・エンタテインメントラボ 副代表/ECSA プロ
ジェクトマネージャー

【経歴】

大学卒業後、株式会社キョードー東京入社。2005年に同社取締役役に就任。2017年3月同社を退任後、同年4月株式会社ブルーモーメントを設立。代表取締役役に。2014年には、新国立競技場改築計画に係る技術委員を、2017年には東京都ホール・劇場等問題調査部会の専門委員を務め、プロモーターの立場から計画提言を行う。コンサートプロモーターズ協会理事及びライブ・エンタテインメントラボ副代表。3月に設立された Entertainment Committee for STADIUM・ARENA (ECSA) では、プロジェクトマネージャーに就任。

【一般社団法人コンサートプロモーターズ協会（ACPC）とは】

・音楽を中心としたライブ・エンタテインメントを主催する全国プロモーターで構成される社団法人で、正会員 68 社、賛助会員 102 社（2019 年 5 月時点）。

・団体の目的としては、ライブ・エンタテインメント事業に関する各種の公益事業を行い、産業・文化としての発展に寄与していくこと。

【ACPC の公益事業】

① 社会や消費者に向けた活動

- ▶ライブ・エンタテインメントの市場規模調査
- ▶野外フェスの掲載波及効果測定
- ▶教育機関での寄附講座
- ▶ライブ・エンタテインメント約款の作成
- ▶会場不足問題、チケット不正転売対策

②業界内に向けた活動

- ▶日本音楽著作権協会（JASRAC）への公演申請・使用曲目報告・演奏権使用料支払等の業務代行
- ▶各種セミナーの開催
- ▶舞台安全に関する合同調査・研究（協力：日本舞台技術安全協会）
- ▶会報誌「A. C. P. C. navi」発行等の広報ほか

【ライブ・エンタテインメント・ビジネス】

- ① 年間公演数の推移…2013 年頃より年間の公演数が急激に増えた背景には、都市部で大型公演を行うよりも、地方都市で小型公演を行う回数が増えたことが理由の一つに挙げられる。※設備の整った小規模な会場が増えたことも大きく影響している。
- ② 2010 年代に急増した動員数…公演数と同時期に、動員数に関しても急激に増加したが、この背景には、味の素スタジアムや日産スタジアムのように 1 公演で 6～7 万人規模での公演が可能になったことが挙げられる。更に、通常スタジアムなどの大型公演の場合、2～3 公演行うのが一般的なため、その影響が動員数に色濃く反映されている。
- ③ 市場規模…消費税が導入される前のチケット代は、入場税という形で 5,000 円を超えるものに対して 10%の税が課せられていたが、消費税の導入（1989 年 4 月）により税率が一律化したことに伴い、1990 年代前半よりだんだんとチケット代が値上がりしていった。
- ④ 地域別のシェア
 - (1)公演数（合計：31,482 公演）…関東：39.4%、近畿：21.6%、東海：9.5%、九州沖縄：7.7%、中国四国：7.0%、東北：6.7%、北陸信越：4.0%、北海道：3.9%、その他・海外：0.1%となっている。
 - (2)動員数（合計：48,623,661 人）…関東：49.0%、近畿：23.8%、東海：8.1%、九州沖縄：6.9%、中国四国：4.2%、東北：3.2%、北海道：2.7%、北陸信越：2.2%となっている。
 - (3)市場規模（合計：344,823,228,355 円）…関東：53.4%、近畿：17.7%、東海：9.3%、九州沖縄：6.7%、中国四国：4.2%、東北：3.2%、北海道：3.2%、北陸信越 2.4%となっている。

【近年の市場規模の推移】

- ・音楽 CD や音楽 DVD の市場が減少傾向にあるが、その理由として、スマートフォンなどの普及により音楽配信などで手軽に音楽を楽しめるようになったことがあげられる。流行に乗った幅広いジャンルの音楽に触れられる機会が多くなったと同時に、音楽性やアーティストに対する想い入れ・価値が薄まってきている現状がある。
- ・ライブ市場については、以前は CD を購入していなければライブでどのような曲が公演されるかわからず、なかなかライブにまで足を運ぶのが難しかったが、音楽配信などで手軽に音楽を楽しめる昨今では、ライブへのハードルもそこまで高いものではなくなったと同時に、“生ライブ”でしか味わえない臨場感も相まって右肩上がりの傾向にある。
- ・現在は、チケット代の他にコンサートグッズについても大きな収入源となっているため、種類や用途を充実させている。更に、人気アイドルについては、公演日前からグッズ販売のみ行い、収益を伸ばす仕組みづくりを確立している例もある。

【野外フェスの浸透】

- ・近年では、1つのアーティストを追い求めるよりも1つのジャンルごと好む傾向にあり、音楽への関わりが広く浅くなっていることから、野外フェス（大型イベント）が更に浸透してきている。
- ・音楽のみならず、その土地の食・風土・アート・ファッションなどを併せて楽しめることも魅力の一つであり、毎年同じ時期に開催されるため、予定も立てやすい。
- ・会場（都市）は異なっても公演内容が同じライブやコンサートと違い、フェスはその場に行かないとお目当てのアーティストやジャンルをみることができないため、多少不便な場所にあったとしても来場者が見込める。また、地方で開催されることが多いため、来場者の宿泊や観光などによる地域への収益にもつながっていく。（ライブ・ツーリズム＝地域活性化）

【会場不足と相次ぐ改修作業】

- ・東京オリンピック・パラリンピックの準備や施設の老朽化に伴い、主要な会場が使用できなくなる。例えば、国立代々木競技場や幕張メッセは2020年6月～9月までオリンピックで使用され、日本武道館は2019年9月から約1年間改修工事のため使用できなくなる。
- ▶五輪終了後、有明アリーナや武蔵野の森アリーナなどが使用可能となるのと同時に、改修を終えた各会場が使用可能となるため、供給過多になる可能性があるのではないかと危惧される。

【ECSA を設立した経緯】

- ・スタジアムやアリーナ計画（建設・運営）に対して、利用者側（競技・興行主催団体＋来場客）の利便性が反映されていない場合が多い。建設段階から介入することで、そのような問題が少しでも解決していけばとの思いから参入している。
- ▶スポーツ、ライブ・エンタテインメント双方で使いやすいスタジアム・アリーナ建設に向けた提案や、稼働率向上、収支の安定、地方創生への貢献と共に、スポーツ及びライブ・エンタテインメント界での人材養成に寄与すること。
- ▶利用者の目線で建設主体・地域の実情に応じた協力・支援を継続的に行っていくこと。



講演 2

講師 長井 延裕 氏

ACPC ライブ・エンタテインメントラボ 客員研究員

(現：副代表)

ECSA プロデューサー

【経歴】

1984 年富士銀行（現みずほ FG）に入学し法人融資営業を担当。1989 年フジテレビに転じイベントコンテンツ制作事業、経営企画に従事。2009 年から環境 NPO、震災復興支援、2014 年から官民ファンド「クールジャパン機構」にて投資案件開拓・投資事業支援。2018 年 9 月同機構退社後はエンタテインメント、スポーツ、事業戦略、ソーシャルデザイン等に関する国内外団体・企業・自治体へのアドバイザー業務を行う。2018 年 11 月より、ACPC ライブ・エンタテインメントラボ客員研究員（現：副代表）。Entertainment Committee for STADIUM・ARENA (ECSA) にてプロデューサー現任。

【スポーツ×ライブエンタテインメント×ツーリズム】

- ・メディアの重要性：テレビ、新聞、ラジオ以外にも、昨今ではインターネット、SNS 等も含まれる。メディアは送り手と受け手をつなぐ重要な役割を果たしている。
- ・コンテンツが消費者をターゲットにしたとき、どういうチャネルを使えばコンテンツ価値が最大化するか。時代とともに変わるメディア、消費も変化している。
- ・メディアコンテンツとしてのスポーツとライブエンタテインメント：ICT 技術の向上により、メディア環境が変化し、コンテンツの需要環境が変化
 - ▶現地で観る × 生中継で見る × 録画・ダイジェストで見る
 - 多メディア、多チャンネルになり、技術進化によりアーカイブデータの蓄積が容易になり、受容者側の選択肢の広がりとともにライブエンタテインメントの価値は上がってきた。
- ・コンテンツのコミュニケーションツール化：SNS で瞬時にユーザーの声が広まるようになり、共感性の高まりや、想定外のヒットが増えてきた。
- ・日本のスポーツはメディアと共に発展してきた。
 - ▶甲子園：話題を作りやすい時期、心が故郷に戻る時期とつながる。
 - ▶箱根駅伝：タスキをつなぐ＝日本人の精神性につながる。正月の生中継で、ドラマ性がある。
 - コンテンツの魅力には、顔とストーリーとプレイス（環境）が重要だが、スポーツの場合は、ドラマ性も含まれ、コンテンツとしての魅力度が高い。
- ・ローカルコンテンツ化が進む結果、ツーリズムに派生するのではないか。スタジアムアリーナにフォーカスすると、地域経済への貢献も含まれる。

▶ECSA として

- ・スポーツ・エンタメ両者含めた、利用者側の連携が必要。
- ・過去の事例として、同会場を一定期間借り、コンサート・スポーツで交互にイベントを行うことも可能であった。

→こうでなければできないということではなく、工夫次第でできることもある。

・ミュージックツーリズムの可能性

- ①日本には豊かな音楽資産があり、世界2位・3位クラスのライブ市場がある。海外から見ても、日本市場を主軸に捕えられており、海外アーティストの来日や大型ライブイベントが成立している。
- ②魅力的な観光資源がある。気候・自然・文化の多様性がある
- ① 国内需要がある。日本人の余暇の関心度、旅行習慣がある。インバウンドに頼らない。

ロンドンの団体「Sound Diplomacy」(<https://www.sounddiplomacy.com/>) が発表しているミュージックシティマニユアル「ミュージックシティをつくる 13 の方法」(原文英語) は、スポーツにも置き換えられるのではないかな。

- ・音楽は都市におけるインフラである
- ・音楽の環境資産を把握する
- ・ノーミュージックの人々との連携
- ・街の遺産を活用する
- ・観光客に使ってもらう
- ・SDGS のツールとして使う
- ・音楽に関連する場やベニューを守る
- ・ビジネスとしての企業環境を作る
- ・音楽教育の重要性
- ・ナイトタイムエコノミーをサポートする
- ・街の建物や土地にやさしく
- ・周りの都市との協力関係を築く
- ・音楽はヘルスとウェルビーイングに貢献する

2019年度 第3回 JSTA セミナー

「ポスト2020のスポーツ地域戦略」

日時：2019年9月18日（水）15:00～17:30

会場：共同通信会館5階会議室



講演1

「スポーツ競技団体生き残りの条件、2020東京を超えて」

講師 宮脇 信介 氏

公益社団法人日本フェンシング協会 専務理事

【経歴】

東京大学経済学部経済学科、カリフォルニア大学バークレー校経営大学院（MBA）卒業。1984年日本興業

銀行に入行、2000年からブラックロック等の外資系運用会社に勤務、運用業務およびマネジメントに従事。現在、ベンチャー・ビジネス（Sasuke Financial Lab(株)）の経営に参画、2014年より公益社団法人日本フェンシング協会常務理事、2017年より専務理事として太田雄貴会長とともに協会運営に従事。

【課題の背景にある環境変化】

フェンシングは伝統あるスポーツであるが、少子化の問題や協会のガバナンスの問題、2020年以降、補助金に依存した財政問題等を抱える中で、2017年太田雄貴会長31歳で就任し、今あるべき姿に向けて変わるべき時と改革を開始した。

【5つの経営課題への取り組み】

①協会理念の明確化→「突け、心を。」フェンシングに関するすべての人に感動体験の共有を理念にかかげる。勝てば何でも許される勝利至上主義からの脱却をはかり、協会経営参画者のベクトルを合わせる。

②財政の「自立性」・「自律性」の強化→財政の安定化。収益力と支出コントロールの強化を目指す。収益は右肩上がりだが、2020東京オリンピック後の補助金は減る可能性あり（財政の崖）。2018年度43%占める補助金への依存を減らし、自己ファイナンス能力を高める為、フェンシングの価値の向上を目指す。

収入面対策(1)全日本選手権大会等のコンテンツ大幅変更（決勝だけを1日あるいは2日に集約、LED等の導入、試合後の選手のふりかえり、選手・審判の脈拍をリアルタイムに表示等）しフェンシングをショーアップ（劇場化）して収入ポテンシャルを上げる。顧客単価引き上げ×集客数の増加で大会収入アップ。2016年は600人程度の観客数が2019年には5,300人まで増加。大会収入のみならず、

フェンシングそのものの価値を高めて、スポンサー収入向上を目指す。集客力は、東京オリンピック 2020 のチケットは販売（のべ約 10 万席）にも必要。

収入面対策(2)フェンシング・ビジュアルイズド

早くて見えづらい剣先の動きを視覚化し、解りやすくしてフェンシングの価値を高め、東京 2020 で全世界に発信する。日本の映像分析技術の高さも合わせて世界に発信できる。

収入面対策(3)第 4 のフェンシングプロジェクト

現在の 3 つの種目に加え、e-sports やアーバンスポーツとも相性がいい新しい種目を作る。

(4)支出のコントロール

強い選手を育てる為に 62% が強化遠征費の支出。事業本部制に改め、事業本部単位で予算立案と執行管理能力の向上に取り組んでいる。

③協会運営の透明化・ガバナンス強化

詳細な説明はしないが、一つの重要なポイントは、2013 年協会不正経理問題を受け、2014 年に複数の弁護士を招き法務インフラの整備を行ったこと。その後の改革の重要な基礎となった。

④アスリート・フューチャー・ファーストの実践

フェンシング強化だけでなく、選手自身がフェンシングの未来に対して可能性を持てるようなサポートを行う。

- ・選手の声を聞くために、ナショナルコーチ、選手へのアンケートを実施。メダルが取れる一選手の成功体験の裏に、その他大勢の選手の敗北経験があることが分かる。体だけでなく心のケアにも取り組む。

- ・フェンシングの世界の平均ピーク年齢は 30 歳程度まで後ずれして来ていることがうかがわれ、むしろ本当に強くなるのは社会人になってから。例えば、現在、男子フルーレ種目の日本の代表の上位選手は 20 歳前後。この選手達は 2024 パリ、2028 ロスでも活躍できる可能性がある。そのために人間性や社会適応能力を高めるサポートが重要。就職サポートやナショナルチームの選手に英語教育を実施中。2021 年以降英語テスト (GTEC) の点数がある程度に達していないと海外の試合に出場させない方針（コミュニケーション能力が必須なため）。

- ・ウェアにつけるサポート企業のロゴマーク 1 枠を選手自身で探す機会を与える。そのために、選手に対しマーケティングから契約の方法までの指導を行う。

⑤一般ビジネスの知見・ノウハウの導入、および、企業との協業・地方公共団体との連携

一般企業との連携を強める。一般のビジネスパーソンで協会運営に興味がある方を、ビズリーチ社を通じて兼業・副業枠で募集。アソビュー社とは、フェンシング体験をしやすいするため、ネット検索で体験プログラムを提供。

<地方とのアクセスポイント>

2019 年 2 月静岡県沼津市、3 月には東京都渋谷区と協定を締結。これからは、地方との協力関係を強めていきたい。

- ・競技会…沼津市（全国少年大会）400 名超参加。保護者やコーチ含めると 1000 名以上が滞在。アジア少年大会を岩国市で開催。定期開催することで毎年その地を訪れる。

・合宿…大分県では、毎年春に韓国で行われる世界大会の前に、アジアでの時差時間調整のため、今回は10か国100名の選手が世界中から合宿に訪れた。

・育成拠点…中央に強い選手を集中させることで、地方の選手層が細ってしまうため、地方で選手を育てていきたい。沼津市では、市と協力して育成拠点を作り、協会推薦コーチを市職員として雇用してもらい、プロジェクトに直接的にコミットしてもらう。

選手が地方に訪れた際、練習環境以外でも、余暇の楽しみ方や地元との交流や体験など、複合的な動機付けやデザインが重要であると感じる。SNSを使ったやり取り、口コミも有効。



講演 2

「ポスト2020を見据えた事業戦略について」

講師 清水 茂樹 氏

公益財団法人日本ハンドボール協会 事務局長

【経歴】

横浜国立大学経済学部を卒業後、1990年に株式会社富士銀行（現株式会社みずほ銀行）に入行。主に経営企画、支店経営、リテールビジネス企画業務

に従事し、2018年3月に退職。2018年4月から公募選考により日本ハンドボール協会事務局長に就任。Jリーグヒューマンキャピタル（現：スポーツヒューマンキャピタル）2期生としてスポーツビジネスについて学ぶ。中学・高校時代はハンドボール部に所属。

【日本ハンドボール協会（JHA）について】～2018年から協会の改革

- ・47都道府県協会、社会人連盟、学連（高体連、中体連）、車椅子連盟を統括。
- ・予算規模10億（昨年支出ベース）、35%が旅費、交通費、渡航費、滞在費
- ・日本代表強化策 年1回行っていたヨーロッパ遠征を年4回に増やす

男子 彗星ジャパン（アイスランド人監督招聘、2019年世界選手権ワイルドカードで出場）

女子 おりひめジャパン（デンマーク人監督招聘、2019年世界選手権を熊本で開催）

【2019年度事業計画骨子】～強化重視からハンドボールの価値を高める（する、見る、支える）

上部団体から強化を求められている。東京オリンピックで他競技では金メダルラッシュが期待されるが、ハンドボールは、オリンピックに出場する機会になかなか恵まれず、銅メダルでもすごい、銅メダルでは喜ばれない。競技力強化だけではなく、ハンドボールの価値を最大限に広げる事が重要。

- ・予算の使い方、消化だけでなく、投資して何が生まれるか意識を変える
- ・トップカテゴリーだけでなく、マスターズへのフォーカス
- ・新たなハンドボール「ビーチハンドボール」ユースオリンピックで採用。アジア各国で強化している
- ・大会の価値向上。観客を楽しませる為のテクノロジー、スポンサー関係強化、サポーターやボランティアを重視する。

【ポスト2020を見据えたJHAの戦略】

・ハンドボールに関わる人の拡大を目指す

ハンドボール経験者・潜在人数の発掘。体育で推奨される（投げる、とぶ、走る）が特性で、体育実技の推奨競技として、学校での実施率が高い。そのため、指導者に恵まれている等の条件が整っており、部活としてポピュラー競技ではあるが、中学生は、日本協会主催試合が少なく、競技登録者が少ない。競技登録者数9万5千人のうち半分高校生であるが、高校卒業とともに競技を終え、大学まで続けることが少ない。生涯スポーツとしてハンドボールを続けられる環境の整備が重要。

集客において、学生大会の応援で、保護者や友人など競技者以外も熱心に応援していることから、ハンドボール経験者も含め、潜在的に関わっている人々を代表戦やリーグの集客に結び付けていきたい。ただし、人気コンテンツが集積している東京・大阪で、現在は競争力がない為、熱のある地方から勝ち筋を探す。東京・立川で平日に実施した国際試合の観客数が1,300人ほどで、飛騨高山で行った女子ハンドボールの試合で1,000人近く集客したことや、熊本県立総合体育館で行われた女子アジア選手権では、3,000人以上集まるなど、これまで東京・大阪での試合が必ずしも集客に有利なわけではない。

・ハンドボールの聖地化づくり

ハンドボール競技人口や大会開催地に偏りがある。愛知は、けた違いに多く、沖縄は、全国で初めて地域のクラブチームもあり有力な土地である。47都道府県に協会はあるが、競技人口数の差が大きく、対応が分かれている。

人口当たりの競技者数が多い地域（岩手・富山・山口・熊本など）を中心に全日本の大会を定期的に行っている。

特に、成功事例として、富山県氷見市は、春の中学生大会により、中学生の競技人口数増に貢献している。大会は、交流試合含めて複数日で構成されているため、選手や保護者の滞在日数が期待できる。同様に、京都府京田辺市（全国小学生大会）や北海道で開催した全日本マスターズでは、600人程の参加者が集まっており、そのような規模間での聖地の固定化を検討したい。

一方で、競技者の偏りに基づく聖地化を目指すためには、これまでの慣例として、東・中・西ブロックでの区切りや主要大会のサイクルが数年後まで決まっているなど課題もある。

【トップカテゴリーの今後の活動】

・2019年熊本女子ハンドボール世界選手権大会 観客者数30万人目標

（前回、1997年世界男子ハンドボール選手権観客者数20万人）

熊本県も力を入れており、東京事務所の職員がハンドボール協会に常駐しながら、各種手続きや広報を担っている。

・第44回日本ハンドボールリーグ2019～2020シーズン開催中（男子10チーム、女子9チーム）

企業の福利厚生により発展した背景があり、中央ではなく、郊外の工場所在地にチームが所在しており、試合を見に行くための交通が不便なところもある。

・東京2020 男子 ソウルオリンピック以来 女子 モントリオールオリンピック以来出場

11 | 2019年度 JSTA会員一覧



法人

- 1 アシックスジャパン株式会社
- 2 株式会社梓設計
- 3 株式会社ADKマーケティングソリューションズ
- 4 EYアドバイザリー・アンド・コンサルティング株式会社
- 5 株式会社近宣
- 6 クリヤマ株式会社
- 7 株式会社クリーン工房
- 8 クロススポーツマーケティング株式会社
- 9 KNT-CTホールディングス株式会社
- 10 JSC株式会社
- 11 株式会社JTB
- 12 ジェイメッセージ株式会社
- 13 株式会社スポーツニッポン新聞社
- 14 SPORTEC株式会社
- 15 株式会社セレスポ
- 16 全日本空輸株式会社
- 17 株式会社ゼンリン
- 18 大日本印刷株式会社
- 19 株式会社タスキ
- 20 株式会社電通
- 21 東亜道路工業株式会社
- 22 株式会社東急エージェンシー
- 23 東武トップツアーズ株式会社
- 24 凸版印刷株式会社
- 25 株式会社ナビタイムジャパン
- 26 日本航空株式会社
- 27 日本空港ビルデング株式会社
- 28 株式会社日本総合研究所
- 29 株式会社日本旅行
- 30 株式会社ヒト・コミュニケーションズ
- 31 株式会社ファースト
- 32 株式会社フォトクリエイト
- 33 株式会社フジヤ
- 34 株式会社ブリックス
- 35 株式会社マイナビ

ミズノ株式会社

- 37 三井住友海上火災保険株式会社
- 38 株式会社モンベル
- 39 名鉄観光サービス株式会社

スポーツ団体

- 1 MLB JAPAN
- 2 沖縄県サイクリング協会
- 3 サイバーダイニング茨城ロボッツ
- 4 公益財団法人全日本空手道連盟
- 5 特定非営利活動法人トップスポーツコンソーシアム秋田
- 6 一般社団法人日本スノーボード&リゾーツ協議会
- 7 日本ダンス技能向上委員会
- 8 公益財団法人日本トリアスロン連合
- 9 公益財団法人日本バレーボール協会
- 10 一般社団法人日本バレーボールリーグ機構
- 11 日本フリースタイルフットボール協会
- 12 公益財団法人日本プロサッカーリーグ
- 13 PSA ASIA (プロスノーボーダーズ アソシエーション アジア)
- 14 一般社団法人港区ラグビーフットボール協会

公益法人

- 1 特定非営利活動法人出雲スポーツ振興21
- 2 公益社団法人伊勢志摩観光コンベンション機構
- 3 一般社団法人ウェルネススポーツ鴨川
- 4 一般社団法人宇部市スポーツコミッション
- 5 おかやまスポーツプロモーション機構
- 6 公益財団法人沖縄県体育協会
- 7 一般財団法人関西観光本部
- 8 一般社団法人九州スポーツツーリズム推進協議会
- 9 株式会社くまもとDMC
- 10 一般社団法人さいたまスポーツコミッション
- 11 一般財団法人佐渡市スポーツ協会
- 12 静岡県西部地域スポーツ産業振興協議会
- 13 静岡県東部地域スポーツ産業振興協議会
- 14 一般社団法人スポーツ・イノベーション・アライアンス東北
- 15 スポーツコミッション青森
- 16 スポーツコミッション関西
- 17 スポーツコミッションせんだい
- 18 スポーツリンク北上
- 19 一般社団法人世羅町観光協会
- 20 特定非営利活動法人地域政策イノベーションフォーラム
- 21 一般財団法人千葉県まちづくり公社
- 22 特定非営利活動法人親子スポーツコミュニティ
- 23 十日町市スポーツコミッション
- 24 公益財団法人とっとりコンベンションビューロー
- 25 長崎県スポーツコミッション
- 26 公益財団法人ながの観光コンベンションビューロー
- 27 新潟市文化・スポーツコミッション
- 28 一般社団法人日本イベント産業振興協会
- 29 一般社団法人日本ゴルフ場経営者協会
- 30 一般社団法人日本ゴルフツーリズム推進協会
- 31 一般社団法人日本ツーリズム協会
- 32 公益財団法人広島観光コンベンションビューロー
- 33 前橋スポーツコミッション
- 34 一般社団法人ルーツ・スポーツ・ジャパン
- 35 国立大学法人和歌山大学国際観光学研究センター

自治体

- 1 愛知県
- 2 秋田県
- 3 茨城県
- 4 石垣市
- 5 岩手県 (いわてスポーツコミッション)
- 6 上田市
- 7 大館市
- 8 岡山市
- 9 小山市
- 10 鹿児島市
- 11 金沢市 (金沢文化スポーツコミッション)
- 12 香美町
- 13 岐阜県
- 14 熊本県
- 15 黒潮町
- 16 佐賀県 (佐賀県スポーツコミッション)
- 17 札幌市
- 18 静岡市
- 19 館山市
- 20 千歳市
- 21 千葉市
- 22 鳥取県
- 23 豊岡市
- 24 豊田県
- 25 長野県
- 26 奈良県
- 27 成田市
- 28 新潟県
- 29 塩町
- 30 浜松市
- 31 美唄市
- 32 姫路市
- 33 三重県
- 34 三島市
- 35 水戸市
- 36 妙高市
- 37 盛岡広域スポーツコミッション
- 38 矢板市
- 39 山形県
- 40 山梨県
- 41 由利本荘市 (由利本荘市スポーツ・ヘルスコミッション)
- 42 横浜市

2020年3月現在

法人会員・スポーツ団体

公益法人・自治体のみ掲載



JSTA JAPAN
SPORT
TOURISM
ALLIANCE

一般社団法人
日本スポーツツーリズム推進機構